

石高創立  
100周年  
記念号

## 世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して

—— 東京鰐陵会創立65周年の節目を迎えて ——

特集1「第30回東京鰐陵会総会」 特集2「会員と共に」 特集3「母校は今」

東京鰐陵会・会長挨拶

石巻高等学校創立百周年記念  
そして東京鰐陵会創立六十五周年を迎えて

東京鰐陵会会長 加藤友成(40回生)



報誌「東京鰐陵」22号には久しぶりに総会の様子を報告することが出来、大変うれしく思っております。是非ともご覧ください。

2024年は「石巻高等学校創立百周年記念式典」が開催されることになっていきます。

また「東京鰐陵会創立六十五周年」の節目にあたります。東京鰐陵会は「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」を合言葉に、記憶に残る活動をしていくことにしました。具体的には

一、石巻高校百周年を祝して石巻高校に記憶に残り、記念になるものを贈呈する。

二、「東京鰐陵会総会」では百周年を踏まえ、東京鰐陵会六十五年の節目を記念として開催する。

三、東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」を「石巻高校創立百周年記念号」とする。

四、「石巻の宝・高橋英吉氏上映会」を東京鰐陵会六十五周年記念事業として開催する。

第一番目：「石巻高校百周年」を祝して石巻高校には「校訓パネル」を贈呈することになりました。記念品を決めるにあたり石巻高校と意見交換を重ねて決定した次第です。東京鰐陵会としては「募金活動」と「会の繰越金」から充当することにしました。会員の皆様にはご理解とご支援を宜しくお願いします。

第二番目：「東京鰐陵会総会」については「石巻高等学校創立百周年と東京鰐陵会創立六十五周年」を記念した会とします。第一部の「総会決議」に続き、第二部は「石巻高校百周年」並びに「東京鰐陵会六十五周年」のお祝いのお場と考えています。また第三部の「懇親会」では「ミニコンサート」を中心として様々な

交流を考えています。

第三番目：東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」二十二号です。今回は「石巻高校創立百周年記念号」として様々な工夫をしました。特別寄稿として「生きている高橋英吉」と題し、大島幹雄氏に寄稿頂きました。

特集1としては「東京鰐陵会総会報告」です。久しぶりに再開し、大変な盛り上がりをした総会の様子が紹介されています。

特集2は「会員と共に」です。NHKの朝ドラの主人公「三淵嘉子」さんを恩師と仰ぐ奥山興悦氏(31回生)より寄稿を頂きました。また六十五周年ということで今年六十五回生の方々により寄稿を頂きました。そして六十七回生から応援寄稿を頂きました。その後の「会員からのお便り」では各回生の方々より近況を報告頂きました。またこの度は石巻市博物館のご厚意により高橋英吉の作品も掲載させて頂きました。

特集3では「母校は今」として石巻高校の活動を報告頂きました。生徒たちの活発な

昨年久しぶりに東京鰐陵会総会を新しい会場・喜山倶楽部で開催することが出来ました。会場にはコロナ前の約120名を数える会員が集い大変盛り上がりました。会

令和5年の5月に新型コロナウイルスは5類に分類されて世の中は共存をしながら社会活動が動き出しました。それから一年が経ち新型コロナも変異を続けており、新たな共存の形を創りながら進化を深めていくことが求められています。会員の皆様にはお健やかに毎日を過ごされていることと思います。日頃は当会の運営に格段のご支援とご協力を頂きます。誠にありがとうございます。

活動の様子を知ることが出来ます。是非ともご一読ください。

第四番目「石巻の宝・高橋英吉氏上映会」を開催しました。令和六年六月九日、芝浦工大豊洲キャンパスにおいて約百名の方々が集まり開催されました。開催にあたり四団体の共催及び十二団体の後援を頂き感謝申し上げます。内容は後述を参照ください。

＊  
昨年は多くの皆様から多額の協力を頂きまして誠に有

## 令和五年を締める東京鰐陵

### 会総会

鰐陵同窓会会長 青木利光(43回生)



加藤会長はじめ東京鰐陵会の皆様には平素より本部事業に格段のご理解とご協力を賜りまして厚く御礼を申し上げます。

周知の通り、昨春までは新型コロナウイルス感染症防止の

難うございました。心より厚く御礼申し上げます。

このところ物価上昇は顕著になり、東京鰐陵会への値上げ圧力は現実的になってきました。

今年度につきましても引き続き皆様のご支援をお願いする次第です。

最後になりましたが記念すべき石巻高校創立百周年そして東京鰐陵会創立六十五周年を記憶に残るものにしていきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ため、本部も各鰐陵会も思うような事業展開は出来ませんでした。密を伴う事業は中止か規模縮小、運営のための各会議も対面での質疑応答は出来ず、議題は書面決議での承認でした。返信の葉書で貴重なお意見を沢山頂戴しましたが、事業に反映させるためには時間を掛けるの議論が必要でした。五月にコロナ感染症が二類から五類に移行し、様々な規制が緩和された

のを受けて漸く密を伴う事業が可能になりました。各鰐陵会では四年ぶりの総会が相次いで開催されました。六月に

関西と松島、七月に河南と東海、八月には本部総会、九月に仙台と涌谷、十一月二四日に市役所そして翌日が東京でした。三年続けての中断と会場の変更、開催に至るまでには例年にはないご苦労があったものと推測します。執行部の皆さん、主管の四十四回生の皆さん、本当にご苦労様でした。どの程度の参加者になるのかが一番の気掛かりでしたが、無用の心配でした。盛況で令和五年を締めるのに相

応しい総会懇親会でした。また、コロナ禍中でも毎年発行された貴会の会報『東京鰐陵』は毎号素晴らしい出来で感心しております。特集記事も楽しく読ませて頂きました。次号も期待しております。編集委員の皆さん頑張ってください。さて、母校は昨年創立百周年を迎えました。コロナ禍で準備が遅れ、記念事業は一年遅れで今年行います。記念式典と記念講演は十一月八日、まさあーとテラス(震災後稲井地区に十年ぶりに出来た大

型の複合文化施設)で、祝賀会は同日石巻グランドホテルで開催します。記念整備事業として七十周年に建てた鰐陵会館をリニューアルしますが、大変残念なことに空調施設を導入出来ませんでした。いろいろ解決しなければならぬ問題のため諦めたのですが、

ここ数年の異常な気候を考えますと鰐陵会館に空調は必須です。再度検討すべきと考えます。記念誌は現在鋭意作成中です。三部に分けて掲載される『鰐陵百科』がメインになります。これからの百年を母校がさらに進むた

## 創立百周年に寄せて

宮城県石巻高等学校校長 須田一憲(55回生)



東京鰐陵会の皆様には、本校の教育活動に、日頃格別の御理解と御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和5年11月25日に開催さ

めに役に立つ記念誌になると確信しております。

近年母校で気掛かりなのはここ数年続いている定員割れです。本年は須田学校長はじめ学校側の懸命な努力にもかかわらず、定員二百四十名のところ入学したのは百八十六名でした。同窓会としてどのような応援が出来るかを模索してありますが、東京鰐陵会の皆さんのご意見もぜひ頂戴したいと思っております。

結びに母校と東京鰐陵会の益々の発展と会員皆様のご健勝ご活躍を心より祈念しまして挨拶と致します。

れました「東京鰐陵会第30回総会」にお招きいただきしたこと、そして皆様にお会いできましたことに改めて感謝申し上げます。会場にて皆様からお話を頂戴し、校長として「至誠一貫、質実剛健、進取獨創、自ら進運を開拓すべし」と職責を果たすべく、気持ち新たにしたいところでございました。

令和6年3月1日、令和5年度第76回卒業証書授与式を実施し、176人の鰐陵生が学び舎を巣立ちました。式辞では次のように話しております。

『皆さんは、創立百周年の時の3年生です。皆さんの卒業で本校の卒業生は累計2万4千013人となり、創立百周年で2万4千人を超えました。本校2万4千人の卒業生はそれぞれの人生を歩んでおり、それぞれに「自ら進運を開拓すべし」があります。皆さんもその一人です。希望に満ちた出発の日に当たり、この学び舎を巣立ちゆく鰐陵生が、これからの社会を創造する一員として活躍し、豊かな人生を送ることを切に願っております。』

さて、本校は、大正12年に宮城県石巻中学校として開校し、昭和23年からは学制改革により宮城県石巻高等学校と改め、令和5年、創立百周年を迎えました。

本校には、初代校長の野口秀敏先生が掲げた創立当時の校訓があります。

一 強健ナル心身ヲ養ヒ以テ  
自我ノ發展ニ努ムベシ

二 至誠一貫勤勉力行事ニ當リテ倦ムコトナキヲ要ス  
三 質實剛健進取獨創自ら進運ヲ開拓スベシ

これは本校の伝統であり、現在は生徒心得綱領として受け継がれ、本校教育の根幹をなしているものであります。中でも「自ら進運を開拓すべし」は、百年の時代を超え、世代を超え、鰐陵生を鼓舞する不易の言葉として、今なお新鮮な響き、清らかな輝きをもっています。

令和5年度は陸上競技部、

ボート部、ヨット部がインターハイに、ウエイトリフティング部が全国大会に、新聞部が全国高等学校総合文化祭に出場しました。インターハイでは、ボート部が女子ダブルスカルで2位、男子シングルスカルで5位と2種目が入賞しています。河北美術展には、美術部の2人が入選しています。吹奏楽部は県大会で金賞を獲得しました。また、ボート部、ヨット部は鹿児島県での特別国民体育大会に出場しました。更に、令和6年

3月、ボート部が全国高校選抜大会男子ダブルスカルで2位に入賞しました。進学面では、7年ぶりに東京大学に現役合格したのをはじめ、国公立大学に75人、私立大学に280人の合格者を出しました。後に続く生徒にはこれを上回る結果を出してくれることを期待しております。

点校としての役割を果たしたいと考えております。創立百周年記念式典は、このことを発信する場にいたします。皆様には、令和6年11月8日に開催する創立百周年記念式典・記念講演会・祝賀会に御参加いただきますようお願い申し上げます。結びになりますが、東京鰐陵会の皆様の御活躍を祈念いたしますとともに、引き続き、本校の教育活動に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶といたします。

特集。プロローグ

東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」22号は「石巻高校創立百周年記念号」と題して「石巻高校創立百周年」及び「東京鰐陵会六十五周年」を記念した特集を組みました。編集にあたっては「世代を越えて集う東京鰐陵会を目指して」の基本テーマを一貫して進めております。百周年特別寄稿として「高橋英吉」を軸として、3つの特集を柱にしました。特集1「第30回東京鰐陵会総会」、特集2「会員と共に」、特集3「母校は今」です。以下に紹介いたします。(敬称略)。

■石巻高校創立百周年記念

特別寄稿「生きている高橋英吉」大島幹雄

■特集1「東京鰐陵会総会」報告

久しぶりにリアルで開催した第30回総会の報告です。コロナ前と同等の約120名の参加者で大変盛り上がりしました。

◎第一部「総会決議」

大変スムーズに遂行されました。

◎第二部「米寿・喜寿のお祝い」

米寿(23回生、24回生、25回生、36回生、37回生)のたくさんの方々に記念品が贈呈されました。

◎第三部「懇親会」

若い世代の方々が多く参加されたこともあり、今までに加えてフレッシュな雰囲気を感じられた楽しい懇親会になりました。

◎特集2「会員と共に」

特別寄稿「女性の社会進出の先駆者・三淵嘉子さん」奥山興悦(31回生)

NHK朝ドラの主人公・三淵嘉子さんをわが師と仰いだ奥山興悦

悦さんからのご寄稿です。

◎東京鰐陵会六十五周年記念寄稿

六十五周年を記念して2024年度に65歳を迎える50回生及び65回生に寄稿をいただいた。

【六十五周年寄稿】

- ・伏見英敏(50回生)
- ・扇谷雄司(50回生)
- ・川名康彦(50回生)
- ・後藤和也(50回生)
- ・佐藤健(50回生)
- ・大和優雅(65回生)
- ・石橋(旧姓新田)稲夫(65回生)
- ・大子田哲郎(65回生)
- ・田代聖治(65回生)

【応援寄稿】

・笠原秀浩(67回生)

◎会員からのお便り(近況ハガキ)

今回は昨年に比べて多くの方々よりお便りをいただきました。会員の皆さんの様々な近況のお知らせが満載です。連絡を

とるきっかけになれば幸いです。※尚、石巻市博物館のご厚意により「高橋英吉」の作品写真を掲載させていただきました。感謝申し上げます。

■特集3「母校は今」

令和5年の5月にコロナが5類に移行してからはほぼ通常の学校生活を送れるようになり、生徒も充実した学校生活だったとの事です。

「体育館での入学式」、「応援練習」、「鰐陵総体(体育祭・球技大会)」、「文化祭」、「競歩大会」、「修学旅行」、「卒業式」等と様々な行事が開催されました。また令和6年度の進路状況、「令和5年度各部活動の活躍」そして「百周年記念事業の進捗状況」の報告がありました。是非ともご覧ください。

100周年記念特別寄稿 **生きている高橋英吉** 石巻学プロジェクト代表 大島幹雄

高橋英吉は生きている、そう思ったのは、東京・世田谷区にある仙台出身の漆画家太宰春夫の次女悦子さんの家を訪ねたときだった。太宰春夫は、戦死した親友英吉の作品聖観音像【図1】を自分のアトリエに安置し香花をたむけ、山の中にこの観音の堂を建て、その堂守になりたいと言っていたという。昭和19年中国で戦死したこの太宰の家には、いままでほとんど知られていない英吉が彫った仏像がある【図2】。訪ねた時86歳になる悦子さんは、父も母も英吉のことを「えいちゃん」と呼んで、とてもかわいがり、心から愛していたこと、母が、英吉が彫った仏像を英吉の身代わりのように、仏壇に置いて、毎朝水をあげ、拜んでいたこと、そして母亡きあとも、自分も



【図1】聖観音像・石巻市博物館提供



【図2】釈迦如来坐像・大島幹雄撮影



【図3】潮音・石巻市博物館提供

同じように、毎日仏像に水をあげ、拜んでいるという話を聞いて、太宰家の英吉への思いの深さを知り、英吉はいまも生きていることを実感した。石巻で生まれた高橋英吉は、東京美術学校（現東京芸術大学）で木彫を学び、在学中文展（現日展）で入選、さらに海を主題とした『潮音』【図3】で特選、これ以後は無鑑査になるなど、若くして高く評価された彫刻家だ。将来を嘱望されていたが、長女幸子が生まれてまもなく召集を受け、ガダルカナル島で戦死した。32歳という若さだった。

昨年8月私が刊行している「石巻学」8号で「生きている高橋英吉」と題し、英吉を特集した【図4・5】。高橋英吉の本格的評伝、戦死したガダルカナルでの足跡、最近発見さ

れた作品について、さらにもっとまでほとんどとりあげられなかった家族への手紙や、戦地から送られた絵ハガキについての論考など、さまざまな視点から英吉をとりあげることにした。彼の作品の多くは所蔵していた石巻文化センターが被災、解体されたのに伴い分散していたが、現在は3年前に開館した石巻市博物館に戻り、展示されることになった。その意味で、いまもなお光彩を放つ高橋英吉の生きざまを多くの市民に知ってもらう、いい機会をつくることのできたと思っている。

この特集を思い立ち、その報告のため、版画家として現在も活躍している英吉の娘幸子さんの家を訪ねた。高校から版画をはじめ、父が残したデッサンや父の友人たちが送ってくる絵はがきを参考に、独学で版画を学んだ思い出を語ってくれた幸子さんに「娘としてお父さんのことをどう思っているのですか？」と聞いた時だった。しばらく沈黙のあと幸子さんは「お父さんのことが大好きなの、ほんとうに会いたかったの」と答え、声をつまらせた。幸子さんが生まれたのは昭和16年9月、父のもとに召集令状が届いたのは、その3ヶ月後お宮参りの日だった。そのまま父は戦地に向かい、翌年11月2日に戦死した。幸子さんの元に残っている父と一緒にいたという証は、生まれたばかりの自分を抱っこして



【図4】石巻学・第8号



【図5】石巻学・第8号

いる父の写真一枚だけだ。一度も見たことない父は、幸子さんの胸の中で80年以上も生き続けていたのだ。この時父を想い続けてきた幸子さんのことも書かなければと思った。それが今回の特集に入っている「こころの版画家高橋幸子」というエッセイである。英吉は、幸子さんの魂に溶け、生



【図6】 不動明王像と自作彫刻刀・石巻市博物館提供

きていることを浮き彫りにできたと思っている。高橋英吉が生まれたばかりの幸子そして、愛する妻澄江のために、まさに魂をこめて彫った木彫が残っている。英吉は戦死したガダルカナルに赴く輸送船の中で、針をまとめた手製の彫刻刀で流木に不動明王像を彫った。この像は英吉が亡くなったあと、遺族のもとに届けられた。どのようにしてこの像が遺族のもとにたどりついたのか、それを知る澄江が亡くなったいま、誰も知ることはない。激戦地からこうした遺品が家族のもとに届いたのは、まさに奇跡といってもいいだろう。そこに英吉の思いの強さ、それを支えた人々の思いがあったのだと思う。『石巻学』で私は、彼がどんな思いでこの不動明王像を彫ったのかを追った論考「海と仏像」を書いた。英吉はきつと残した妻と娘を

守ってくれという思いをこめて彫ったのではないかと思っ  
ている。いま石巻市博物館に  
展示されている、掌にすっぽ  
り入るこの小さな不動明王像  
を見るたびに、死地に向かう  
なか、どんな思いで彫ってい  
たのだろうと、切ない思いに  
駆られてしまう【図6】。そして  
あらためて、戦争への怒りが  
こみあげてくる。

拙稿「海と仏像」を書くとき、参考になったのが、石巻高校が編集刊行した小冊子「故高橋英吉の人と作品―追悼座談会記録」（昭和33年）だ。英吉の兄の寅次郎、「つつじ園」のオーナーの小松むめこ、石巻高校時代の同級生や先輩後輩たちが語り合った英吉の思い出話は、英吉と一緒の時間をすごした人たちの濃厚な証言ばかりで、原稿を書く上でとても参考になった。特に戦争に対して英吉がどう思っていたかを知ることができた。私は、早稲田大学の演劇博物館でこの冊子を見つけたのだが、これを寄贈したのは、石巻高校で教鞭をとり、神楽先生と呼ばれていた民俗学の第一人者本田安次であった。英吉が戦死したガダルカナル島の北部に位置する、南太平洋を一望するアウステン山の麓に、1981年10月の島で戦死した人たちの霊を祀り、永遠の平和を祈願するため、平和慰霊公苑がつくられた。この中央に立っているのが、英吉の傑作彫刻「潮音」のブロンズ像である【図7】。荒波に立ち向かうように、漁に使うロープを肩にかけた海の男のまなざしは、北北西にある、生まれ故郷石巻に向けられている。除幕式には、石巻ゆかりの人や戦友たちからなる南太平洋戦没者慰霊団と共に、英吉の妻澄江さんと幸子さんも参列した。戦友が遺した手帳に「前方の台地で、今まで重機関銃を撃ち続けている高橋一等兵が、ガクリと前のめりに倒れたまま動かなくなった」とその最期が書き留められていた。慰霊団のひとり、英吉と同じ隊に属していた人からその場を教えてもらい、妻と娘はいま市街地に変貌したその地を訪れ、持ってきた線香、写経、水をその地に加え、手を合わせた。「長年の胸のつかえが取れた。これで主人の霊も浮かべられるでしょう」と随行した石巻かほ

ル島の北部に位置する、南太平洋を一望するアウステン山の麓に、1981年10月の島で戦死した人たちの霊を祀り、永遠の平和を祈願するため、平和慰霊公苑がつくられた。この中央に立っているのが、英吉の傑作彫刻「潮音」のブロンズ像である【図7】。荒波に立ち向かうように、漁に使うロープを肩にかけた海の男のまなざしは、北北西にある、生まれ故郷石巻に向けられている。除幕式には、石巻ゆかりの人や戦友たちからなる南太平洋戦没者慰霊団と共に、英吉の妻澄江さんと幸子さんも参列した。戦友が遺した手帳に「前方の台地で、今まで重機関銃を撃ち続けている高橋一等兵が、ガクリと前のめりに倒れたまま動かなくなった」とその最期が書き留められていた。慰霊団のひとり、英吉と同じ隊に属していた人からその場を教えてもらい、妻と娘はいま市街地に変貌したその地を訪れ、持ってきた線香、写経、水をその地に加え、手を合わせた。「長年の胸のつかえが取れた。これで主人の霊も浮かべられるでしょう」と随行した石巻かほ

くの鈴木孝也記者に語った澄江さんの手には、あの英吉の絶作「不動明王像」が握られていたという。英吉の命日の翌日、11月3日は石巻市博物館の開館記念日になっていく。いままでも博物館では、この日を記念して、高橋英吉を偲ぶイベントを開催し、市民が協力して制作され、1984年に公開された、高橋英吉の生涯を綴ったドキュメンタリー映画「潮音ある愛のかたみ」を上映している。妻や娘の待つ故郷にもどりたいという希みをかなえることができなかった英吉の思いを偲びながら、いまもなおなにかを語りかける英吉の作品を見てもらいたい機会を提

供している。石巻の宝、高橋英吉は、石巻市博物館による展示、さらには今回の「石巻学」の発刊によって、またよみがえり、私たちの心の中で、また新たな生を育もうとしている。私もこの英吉の魂を多くの人々に伝える語り部となっていきたいと思っっている。石巻学8号「生きていく高橋英吉」はまだ若干在庫があります。ご希望の方は、左記までハガキ、FAX、メールなどでご連絡ください。送料込みで、1,830円になります。振込用紙を同封してお送りしますので、手許に届いてから一週間以内にお振り込みください。



【図7】 ガダルカナル島の「潮音」像・天谷裕道撮影

【申し込み先】 〒236-0052  
神奈川県横浜市金沢区富岡西2-21-23  
大島方 石巻学プロジェクト  
FAX：045-773-4643  
E-mail：IZJ00257@nifty.com

## 特集1 第30回東京鰐陵会総会報告

いわゆるコロナ禍によって、東京鰐陵会も総会中止2回、書面総会1回という大きな影響を受けました。その三年間を経て、2023年11月25日(土)に第30回という大きな節目となる総会を開催しました。久しぶりの「総会」は118名の参加(申込み120名)を得て、つなごりの確認ができ、大成功となりました。

和泉耕二氏(38回生)の指揮による久々の校歌と加藤友成会長の挨拶で始まった第一部では、予定されていた決議事項が滞りなく承認されました。第二部の米寿・喜寿のお祝いの席では、参加の米寿5名、喜寿18名の方々に記念品をお渡しすることができました。代表として米寿、阿部剛(25回生)様、喜寿、千葉保宗(34回生)様よりご挨拶をいただきました。

待ちに待った第三部懇親会では、ご来賓の方を代表して、本部同窓会会長の青木利光様、校長の須田一憲先生から挨拶をいただき、参加者最長老の

吉野敏(25回生)様の乾杯で歓談に移りました。その和やかさはまさに『世代を越えて集う「東京鰐陵会」を目指して』を具現化する姿となりました。(報告者・伊藤、尾口)

## 総会第一部 総会決議

1. 開会の辞 瀬川徹副会長(40回生)

◎校歌斉唱 指揮 和泉耕二氏(38回生)

## ◎黙祷

2. 挨拶 加藤友成会長(40回生)  
3. 議事 議長 平塚善伸副会長(40回生)

2022年度及び2023年度の2年度にわたる議事が「東京鰐陵会第30回総会資料」等により進められ、全て了承されました。

【第一号議案】 2022年度事業報告(公務・活動報告)(収支報告及び監査報告)

【第二号議案】 2023年度事業報告(公務・活動報告)

【収支報告及び監査報告】

◎活動経過報告 加藤友成会長

(40回生)

◎公務・行事報告 伊藤純事務局長(43回生)

◎会計報告 新田輝夫事務局長次長(会計担当)(42回生)

◎監査報告 熊谷勝義監事(38回生)

◇花東贈呈 佐藤悠前会長(37回生)、境田憲男前副会長(37回生)、丹野静也前副会長(37回生)に、感謝の花束が贈呈され、佐藤悠前会長より挨拶をいただきました。

総会第二部 米寿・喜寿のお祝い

第二部の「米寿・喜寿のお祝い」の席では、コロナ禍の年次にも翻つて、米寿には23回生から26回生、喜寿には34回生から37回生の皆様を対象として、米寿に5名、喜寿に18名と多くの方々に参加していただきました。そのお一人一人に、加藤友成会長と前会長佐藤悠氏より記念品をお渡しすることができました。

それぞれの代表として米寿は阿部剛(25回生)様、喜寿は千葉保宗(34回生)様よりご挨拶をいただき、会場は、大きな拍手の場となりました。

## 総会第三部 懇親会

第三部の懇親会では、伊藤事務局長から開催の宣言があり、司会進行が当番幹事回生の44回生、岩崎由次氏、青木良有氏に渡されました。

伊藤事務局長より、ご来賓の鰐陵同窓会本部から青木利光会長、事務局長の二階堂守宏様、石巻高等学校の須田一憲校長先生が紹介され、青木会長、須田校長先生より、それぞれご挨拶を頂きました。

乾杯のご発声を、当日出席最長老の25回生吉野敏様より挨拶を頂き、乾杯が行われました。歓談タイムに移り、当番幹事回生44回生二同が登壇し、世話人尾口仁志氏より挨拶が行われました。

若手紹介に移り、本年の本部同窓会の幹事回生67回生が登壇し一人一人挨拶が行われました。約1時間の歓談タイムに移り、4年ぶりの再会を思い思いに祝しました。

懇親会の最後に90回生の元応援団長真龍竜大氏の下、「鰐陵歌」「幻の門」が全員で歌われました。会場からは「ヨイヤサ節」の声がかかり、「ヨイヤサ節」が歌われました。次回当番幹事回生である45回生の引き継ぎが行われました。44回生代表の半澤竹彦氏から45回生の代表新田裕史氏に法衣が渡され、新田氏より来年の総会へ向けての挨拶がなされました。

懇親会の中締めに移り、監事の37回生佐藤悠氏より挨拶があり、1本締めで第30回総会は終了しました。

## 乾杯の音頭

吉野 敏(25回生)

令和5年11月25日(土)、千代田区二ツ橋の日本教育会館内喜山倶楽部「平安の間」において第30回東京鰐陵会総会が開催されました。コロナ禍により4年ぶりです。出席者は、来賓の方々を含め120名という盛況でした。

私達25回生が最年長になっていたことから阿部剛君が挨拶を、私が僭越ながら乾杯の音頭を担当することになりました。

誠に晴れがましいことで緊張しながら祝杯を挙げさせて頂きました。

母校は、1923年石巻中学校として創立された伝統校でしたが学制改革により1948年石巻高等学校と改まり発足しました。

私達は新制高校第1回生であり、卒業後65年になります。この年月は長かったが過ごせばあつという間と言えるものでした。高校3年間の授業、部活動、交友に多くの思い出があります。そのなかでも南側の運動場に接している校舎から眺望できる

景色が強く印象に残っています。マリンプール―直線の水平線は講義をそぞろにするものでした。海を見つめ狭い石巻からどのような脱出するかなどを空想していました。この時の状況が今でも夢に現れることがあります。

(平安の間)にて行われました。当番幹事回生となった令和元年9月の理事会に初めて出席し、長きに渡り44回生の理事として出席されていた半澤竹彦さんとお会いしました。半澤さんと高校時代の事を懐かしくお話しし、また、諸先輩にお会いし大変緊張したことを思い出します。当番回生として、半澤さんを中心にして私が世話人となり、関東在住の44回生に声をかけることから始めました。また、本部署務局長の二階堂さんと連絡を取り、石巻高校を訪ねました。

かつて九州地方の高校同窓会の開催通知がよく新聞に掲載されているのを目にしましたが、宮城県例を少ないと感じていました。私自身若い時は同窓会への関心をあまり抱いていませんでした。しかしそのうちに同窓会は旧交を温める、郷里の匂いと呼び戻すことばかりではなく、自分を励ますものがあると感ずるようになりました。これは帰属意識、さらに郷土愛からもたらされるものと思います。

卒業アルバムをコピーしてもらい、以降二階堂さんには大変お世話になりました。44回生の代表である松本賢さんとコンタクトが取れました。44回生は「獅子の会」として活動されてきました。早々に名簿を送って頂きました。平成4年度のもので、果たして何人の方と連絡が取れるか自信はありませんでした。勿論、殆どが宛先不明で戻りましたが何人かの方と連絡がとれ、連絡網を作る事が出来、以後、お知らせや旅の話など思い思いに利用するようになりました。

今後とも互いに誘い合い、東京鰐陵会をますます発展させ、永続されることを祈ります。

しかしながら同時に新型コロナウイルスの時代に入りました。何度か集まる計画を立てましたが「感

染拡大期」となり、中止せざるを得ませんでした。初めて集まる事が出来たのは、令和5年4月15日土曜日、東京駅近くの居酒屋「四季彩」でした。写真では左から高橋政昭さん、平山博さん、岩崎由次さん、半澤竹彦さん、辺見義一さん、日野和徳さん、小生、田昭治さんの8名でした。今井元一さん、青木良有さんは仕事の都合で欠席でしたが、後日お会いし再会を祝しました。また総会間近でしたが、川村和夫さんとも連絡がとれ、自筆の手紙が送られてきました。

私は運営委員でもありましたが、加藤会長、伊藤事務局長、さらに多くの諸先輩のご指導も頂き当番回生としての準備に取り掛かりました。今までは、東海大学校友会館で行われていま

したので、既にご覧のとおり、直ぐに運営委員の皆さんと緒に準備にとりかかりました。私は腰痛持ち。皆さんから「俺たちに任せてお前は座っている」「今食べないと食べる時間がないよ」と。私は素直に「頼む」と皆さんにお願いました。

## 当番回生として 第30回東京鰐陵会総会 を振り返って

世話人 尾口仁志(44回生)

令和5年11月25日、4年ぶりに第30回東京鰐陵会総会が日本教育会館9階の「喜山倶楽部

集まる計画を立てましたが「感



【全員集合】懇親会

したので、初めての場所での4年ぶりの開催となります。そこで、司会を岩崎さんと青木さんの2人体制としました。総会の日が近づくにつれ、資料が続々と送られてきました。皆さんには、計4回のメールで、当番幹事回生の役割と当日の流れをお知らせし、司会のお2人には直接会って流れを確認しました。

かし、歌わない理由はありません。G・サインを出したように思います。真龍君は機転を利かし「ヨイヤサ節」を。私も卒業以来でした。皆さんの一丸となつた大きな声が会場全体に広がりました。

総会当日は10時集合としましたが、既に皆さんが来ており、直ぐに運営委員の皆さんと緒に準備にとりかかりました。私は腰痛持ち。皆さんから「俺たちに任せてお前は座っている」「今食べないと食べる時間がないよ」と。私は素直に「頼む」と皆さんにお願いました。

全執行部の皆様、加藤会長、伊藤事務局長を始め多くの諸先輩のお力の下、大役が果たされたものと思っています。

総会は予定通り進み第3部の懇親会に移りました。皆さん待ちわびた4年間だったと思えます。「かんばしい」。出席された皆さんの笑顔が会場いっばいに広がった瞬間でした。約1時間の歓談タイムがあつという間に過ぎ去りました。

27回生の故三宅哲氏の「会員だより」に「大切な人とは会えるうちに会おうという言葉を実感している」と書かれています。石巻高等学校、東京鰐陵会の益々の発展を祈念し、報告と致します。

つだけ、予定外がありました。懇親会も終盤。「鰐陵歌」「幻の門」斉唱が終わると同時に突然のアンコールのシブレットビコールが二斉に出ました。予定にはなく、真龍君は私を「瞬見ました。し

27回生の故三宅哲氏の「会員だより」に「大切な人とは会えるうちに会おうという言葉を実感している」と書かれています。石巻高等学校、東京鰐陵会の益々の発展を祈念し、報告と致します。

27回生の故三宅哲氏の「会員だより」に「大切な人とは会えるうちに会おうという言葉を実感している」と書かれています。石巻高等学校、東京鰐陵会の益々の発展を祈念し、報告と致します。

# 会場風景写真



加藤会長挨拶



校歌斉唱



感謝の花束贈呈



監査報告 (熊谷監事)



喜寿の記念品贈呈



米寿の記念品贈呈



須田校長挨拶



青木本部同窓会会長挨拶

# 会場風景写真



67回生の紹介挨拶



44回生の紹介挨拶



45回生の紹介挨拶



鰐陵歌応援歌斉唱（真龍竜大氏 [90回生]）



中締め、閉会



当番幹事の引き継ぎ



会場風景（その2）



会場風景（その1）

# 各回生テーブル写真



役員：26、28回生



御来賓及び役員



29～32回生



25～27回生



36、42回生



33、34回生



38、39回生



37回生

# 各回生テーブル写真



41回生



40回生



44回生



43回生



48～62回生



45回生



旧北上川河口



67、90回生

## 特集2 会員と共に 特別寄稿

## 女性の社会進出の先駆者・三淵嘉子さん

弁護士(元東京高裁部総括判事) 奥山興悦(31回生)



令和6年4月からNHK

の連続テレビ小説(朝ドラ)「虎に翼」が放映されました。この主人公のモデルは、私が恩師と仰ぐ三淵嘉子さん(日本初の女性弁護士、初の女性裁判所長)です。

彼女は大正3年に生まれ、昭和13年に他の二名と共に女性で初めて高等試験司法課試験に合格し、新聞に写真入りで大きく報道されましたが、当時、裁判官や検察官は「日本帝国男子に限る」とされていたため、三淵さんらは我が国初の女性弁護士となりました。

しかし、終戦の混乱で、彼女は最初の夫と両親を失い、幼子と弟達を育てながら、裁判官への任官を目指して再出

発。昭和24年、東京地裁判事補に任官し、名古屋地裁、東京地裁・家裁判事を歴任し、同47年に新潟家裁所長に就任。初の女性裁判所長となり、新聞やテレビで大きく報じられました。

昭和54年に横浜家裁所長を定年退官した後、日本婦人法律家協会会長を務め、同59年に骨痛で逝去。

令和5年、彼女についての本格的な評伝・解説書として、「三淵嘉子と家裁判所」が日本評論社から刊行されています。編著者の清永聡さんはNHKの解説主幹で、私とはかねて親交があります。

私も評伝に登場し、また、三淵さんらレジェンドと当時最高裁



送別会 左から萩原・奥山・三淵

家庭局の課長だった私も出席した貴重な座談会



広報 家裁35周年

「家裁発足当時の思い出」について、私が解説をしています。ぜひご覧ください。

家裁判所は昭和24年にアメリカの制度を取り入れて誕生し、少年事件及び離婚などの家事事件を取り扱う専門的な裁判所として国民に定着し、今年創立75周年を迎えました。

三淵さんは、初代最高家庭裁判所として家庭裁判所の設立に関与し、延べ五千人の少年少女と真剣に向き合う一方で、豊かな人脈を生かして、東京家裁の調停委員らに呼び掛け、昭和41年に少年の社会復帰を側面から援助するボランティア団体「少年友の会」を創設しました。現在では、全国すべての家裁に対応して「少年友の会」が結成されています。

私は、昭和39年の司法修習生時代に、御夫君の三淵乾太郎判事から民事裁判の基本を学び、三淵嘉子さんから少年



戦前の法服

事件について教わりました。翌年、私は裁判官に任官。その際、私の弁護士教官が記念に戦前の弁護士の法服を私に着せて撮影をしてくれたのです。

昭和47年、私が仙台家裁から最高家庭裁判所となったとき、東京家裁の三淵さんをお願いして、少年審判を傍聴させてもらい深く感動しました。その内容は前記の清永編著に紹介され、そのイメージ映像が令和6年5月27日のNHK教育テレビ番組「憲法と家裁判所」三淵嘉子からのメッセージで全国に放映されました。

三淵さんには、一度でも会った人をたちまち惹きつけるオーラがありました。笑うと笑窪ができ、声が美しい。他方、理不尽な主張や男女差別の言動に対しては毅然として対応しました。

昭和40年代に法制審議会少

年法部会で激しく議論された少年法改正問題について、委員の三淵さんが豊富な実務経験に基づき、非行少年に対しては、刑罰よりも教育が有効であると訴えると、反対論者たちもうなづいてしまうという場面がよくありました。「本当に自分の胸から出た言葉でなければ、相手の胸を自分に引きつけることはできない。」(ゲーテ)のとおりでした。それ以来、私は、三淵さんを我が師と仰ぐようになりました。

三淵さんは裁判官退官後、労使の意見対立が激しい労働省男女平等専門家会議の座長として、昭和57年最終報告を提出。三淵さんの最後の偉業で、これが男女雇用機会均等法の基礎となって法律ができ、我が国における女性の社会進出が飛躍的に伸びたのです。

令和6年8月9日、村上明治大学教授、NHKの清永氏及び私に対する取材に基づき、毎日新聞の夕刊の特集記事「会いたい」人として三淵嘉子さんが選ばれました。同様の記事「三淵嘉子が駆け抜けた生涯」が雑誌「世界」2024年9月号に掲載されています。

## 三陸食べる観光

東浜中卒・伏見英敏(50回生)



「復興バー@銀座」というイベントに同級生の平塚隆一郎君が参加すると聞いて、銀座の小さな会場に駆けつけたのが2013年の夏。地元のISHINOMAKI2.0の皆さんと東京の東北支援会+の皆さんの企画で実現したのが「復興バー@銀座」です。毎日代わるマスター達が主に自分たちが誇る地元の食材やお酒を1品500円で提供する立ち飲みバーです。1年目はお客で参加。2年目3年目は、平塚君のお手伝いスタツフで。口コミだけで連日大賑わい。「食べて飲んで被災地支援しよう」という多くの人達の共有する思いが熱気を生み出したのだと思います。『今度は私たちもマスターとして参加しましょう』銀座のお隣の新橋でイタリアンバー「イルマッジョ」を営営する和田さんに(湊中・石女OG)にお声がけいただき、

お店の常連の同級生本庄雅之君を巻き込んで立ち上げたのが「チームイルマッジョ」と行く三陸食べる観光」でした。おかげさまで石巻関係者や石巻を応援する皆様に恵まれ、毎回大盛況でした。私達の提供する料理は、蒸し牡蠣、ほや、金華鯖サンドなどがメインで、地酒の日高見や墨廻江も大好評でした。東京に居ながらにして石巻の食を楽しみ、気に入ったら実際に石巻へ足を運んでもらうのがネライです。実際にコロナ禍前までは、10人ほど仲間を募って1泊2泊の石巻を巡る旅を実施し、牡鹿半島のリボンアートや女川や雄勝方面を回りました。ちなみに、その土地の気候風土が生んだ食材・習慣・伝統・歴史などによって育まれた食を楽しむ食文化に触れる旅を「ガストロノミーツーリズム」と呼ぶそうで、近年各地で静かなるブームだそうです。今後も東北支援会+のイベントやイルマッジョでの「石巻食べる観光」などで食や観光を通じた郷土の応援を展開していきたいと思っております。

## 「旅」も今では様変わり

扇谷雄司(50回生)

私たちが大学を卒業したあたる昭和58年当時は「卒業旅行」なる言葉があり、4月に新社会人となる前のオトナの階段を登るいわば執行猶予とも言える期間に、長期に旅行できるのもこれが最後とばかりにそれなりのスパンにわたって旅に出るのが一般的でした。その旅の形態は一人旅そして親しい友人同士の連れ合い旅等様々でしたが、総じて大したカネを持たないいわゆる「貧乏旅行」だった事が多かったような気がします。かくいう私も多聞に漏れず学生時分リュックを担いで海に向こうの何やら怪しげなエリアを自由きままにほつつき歩く典型的な貧乏旅行を経験したクチで、一日の軍資金たる三千円を3で割り各千円をそれぞれ宿代・食費(3食で!)・交通費等雑費にあてがうそれは涙ぐましいものでした。その限られた予算の中で日々1ドルでも節約せんとする工夫をどこか楽しんでいた自分がいたものです。その旅好きが高じて大学卒業後運輸として旅行関係の仕

事に就く事になるのですが、自身の職業にした「旅」が年々様変わりする現場に立ち会うことになるとは当時知る由もありませんでした。その業務上旅行カウンターでのお客様や市販の旅行ガイドブックに接して感じたのは、昔のごとく「カネ」のない旅行にもはや魅力を見出せなくなった若者が増えていった事でした。かの地球の歩き方なる有名な旅行ガイドブックは、当時は一日の軍資金をいかに切り詰めるかのバイブルとも言える存在でしたが、現代のそれは例えばホテルも五つ星クラス、レストランに至ってはかのミシュランの星付きまで掲載されている始末です。今どきの学生はおそらく旅を自身の「晴れ舞台」と位置づけており、例えば当時の私のように旅先でモノを買う際の反射的についつい値切ってしまうたり、その釣り銭を受け取った際も無意識にその額をチェックしてみたり、見ず知らずの現地人が何やら親しげに話しかけてくるや、コヤツ

は一体何の下ゴコロありやと思わず訝しがってしまう行為はいわば「ダサイ」と考えているのかも知れません。就活が大学4年生の11月にようやく解禁される私たちの時分とは違い、早ければ大学2年生あたりからそれを開始する最近の学生はもはや卒業旅行そのものさえ放棄し、我々がそれに勤しんでいた卒業前の春先には既にネクタイを締めスーツに身を固めて4月以降に即戦力となるべく日々研鑽を積む学生の方々も一般的になりつつあります。もちろん旅の形態は百人いれば百通りあり、旅に出る出ないの行為そのものも個人の自由であることは言をまつまでもありません。そもそもその後の人生の方が遥かに長くなるその執行猶予期間を己のスキルを磨くことに費やすのはある意味当然ともいえ至極「真つ当」であることは認めざるばかりありません。しかしながら旅とはと問われた際かかる機会を通じて即座に、例えば一日の軍資金三千円を3で割った予算千円の安宿を見つけてくる事が出来ず仕方なく一泊二千円の高級宿(?)に泊ま

らざるを得なかった翌日の食事を泣く泣く1食のみに切り詰めたり、僅か1ドルの土産物を半額に値切る際その店主との丁々発止のやりとりで半

日もかけたりした等のネタを披露し得る引き出しを与えてくれた私の、執行猶予期間には、今となっては感謝の気持ちでいっぱいです。

## 黄金花咲く浦谷を懐かしむ

川名康彦(50回生)

卒業から46年の年月が過ぎ、久しぶりに在学当時を振り返りたいと思います。

私は父・康雄(22回生)や叔父・喜久雄(32回生)から幼い時より石巻高校「愛」の洗脳を受けて、特に父は『鰐陵バカ』と言われるくらい石高を愛していました。恩師である校歌の作詞者の浅野正蔵先生やお神楽研究の本田安次先生の話、そして地元浦谷出身の週刊朝日の編集長をされた扇谷正造さん(3回生)の話、在学中に野球部が甲子園に出場したことをよく聞かされたものです。私も入学前には校歌・応援歌を歌うことが出来ていました。そのような環境下では石高進学は必然で、当時浦谷からは浦谷中出身が7名、笹岳中出身2名計9名が入学しました。

石高時代の地元浦谷の思い出は、入学の歓迎行事である

「試胆会」です。4月の土曜に鰐陵の先輩が住職である伊達安芸廟の見龍寺本堂で、在学の先輩並びに大先輩も出席の歓迎会で『鰐陵生とはどうあるべきか』との訓示を聞いた後に、「試胆会」が午後八時頃からスタートしました。明け方までに神社寺院を回ってくるといふ運営で、当初、我々新入生は会の名前の通りの「胆試し」と思っていました。実際は幽霊よりも衝撃的な歓迎行事でした。

「試胆会」は直近に卒業した若手の先輩方が、神社寺院(関所)に待機して、我々をさまざま課題?で歓迎するといふものでした。関所に入る前には大声で名前を数十回張り上げ、「ヨシ」と言われて初めて関所に入れるといふもので、全員が声を枯らしてしまいました。関所での課題は、今のお笑い芸人のように蟬

のまねをしての木登り、墓石と墓石に手をつけて足を宙に浮かせて回してのサイクリング、目に見えない相手との二人相撲等々今思えばよくあんなことをやったなどの思い出です。

その後、「試胆会」は平成元

## 石高の思い出

後藤和也(50回生)

私が石高の門をくぐったのは、昭和50年の春のことでした。中学まで男女共学だったのが男子校となりおまけに質実剛健を旨としたバンカラを絵に描いたような高校で、毎日が戸惑いと新たな発見の連続でした。そんな高校生活で記憶に残っている授業が三つあります。

一つ目は数学の授業です。一年の時の数学の先生は戦争で片腕をなくされた方でその先生が、授業中私の横で、急に立ち止まり私の二の腕をいきなり定規で叩いたのです。何で叩かれたのかわからな

年頃に中止になったとのこと。バンカラという名の昭和の運営も消える時代だったのでしょうか。入学時にヒットした「我が良き友よ」(昭和50年)の時代を思い出し、今宵は昔の友を懐かしみ一献傾けたいものです。

二つ目は、英語の授業です。

小柄で耳の大きな先生で非常に癖のある英語で発音を自慢される先生でした。その先生が毎日9時のニュースを見て9時半に寝るといふことが当時の夜更かしな私には衝撃でした。今年65歳になる今の私は、まさにその通りの日常を送っていますが…。

三つ目は、柔道の授業でした。真冬の寒い日に裸足のため足先の感覚がなくなる中、必死に受け身と技を教え込ま

## 鰐陵体育祭の思い出

佐藤 健(50回生)

今年度に65歳を迎える50回生に本会報誌に寄稿の呼びかけがありましたので、寄稿させていただきます。

1982年に東京圏の企業に入社し、その会社で40年間勤めあげたところで、体が動くうちに趣味でも見つけ、老後を楽しもうと思いい、2年前の62歳の年度末で定年退職

しました。再就職もせず、水彩画教室に通い始めたり、オンラインでの英会話教室に挑戦したりしています。

高校の3年間は若き日の良き思い出として残っています。その中で1番の思い出は体育祭です。当時はクラス毎のやぐらに、絵を描いた約4m四方の紙を4〜5枚重ねて貼り、適時、上の絵を剥がして下の絵を出し応援するというのが恒例でした。私は3年間



体育祭での先生方の似顔絵看板

## 鰐陵ラグビー部の秘密兵器？ 65回生の隠れた伝説、小野里忍君の話

大和優雅(65回生)

まさにスポーツ万能、小学生の頃は健康優良児として表彰されていた小野里忍君は、石巻高校入学後は家が遠いことを理由に運動部には入らず、ほとんど太ってしまった。やがて体重が90キロに迫り

この絵を描く係を担当し続け、1・2年時は先輩方の補助でしたが、3年のときにリーダーになり、自分の好みで題材を決めることができました。そのうちの1枚を校内受け狙いで、個性的な先生3人の似顔絵を作成することになりました。3人の先生のうちの1人が、前回の東京鰐陵21号に寄稿されていました清水志郎先生です。清水先生はクラス担任や、私が所属していたバレー部の顧問で3年間非常にお世話になった人気の先生で、感謝を込めてこの絵をほとんど一人で一気に仕上げました。そういえば入社後も、社内技術交流会の説明用パネルに社長や会長の似顔絵を描くという進歩の無いことをしていました。

「このままじゃマズい。やはり部活に入ろう」と思った彼は、サッカー部入部を決心して部室へ向かったのだが……。サッカー部の部室前でウロウロしていたところをラグビー部の先輩に見えられ、

「ちょっと話をしようじゃないか」とラグビー部の部室に連れて行かれると、最終的には顧問の阿部秀雄先生に説得？されて、本人もわけが分からないうちにラグビー部に入部したのだった。ルールひとつ知らずにラグビー部に入部した小野里であつたが、持ち前の運動神経と、その強靱な肉体から繰り出される驚異的なパワーを高く評価され、本人の語るところ「鰐陵の秘密兵器」ともてはやされたらしい。

彼の入部直後に始まった県大会で、石巻ラグビー部は見事に優勝し、全国ラグビー大会、いわゆる花園行きを決めた。石巻高校にとって4年ぶり4度目の、そして今のところ最後となっている平成2年の花園出場。入部したての小野里が選手としてどれほど貢献したのかは定かでないが、あれよあれよという間に花園に行くことになった彼は、ラグビー部にとってラッキーボーイだったのかも知れない。小野里はラグビー部メンバーとして堂々と花園に行き、私にはお土産にビニール袋に詰めた土をくれた。「甲子園

## 34年前の記憶

石橋(旧姓)稲夫(65回生)

の土だぞ」と威張っていたが、たぶん「花園の土」の間違いだらう。その後、「2年生になったらレギュラーに」と息巻いていた小野里だったが、本人曰く、ルール改正の影響があつたとかで出番が激減し、徐々にラグビー部での存在感が薄れ、2年目の県大会前に退部した。

グビー部時代にさらに増量し、退部後はさらに太り、その後も健康優良児だった頃のスリムな体型に戻ることはなかった。しかし、ラグーマンとして花園の土を踏んだことは、彼にとって生涯一の自慢であつた。

入部の目的だったダイエットは進行しないどころか、ラ

平成29年、42歳という若さで亡くなった我が友、小野里忍。もう一緒に高校時代を語り合えないことが、寂しくたまらない。

「新しい田んぼに稲の夫と書いて分かるように、僕のお父さんは会社員です。」 次の瞬間、教室が爆笑に包まれたのを今でもハッキリ覚えてる。私の高校生活はこの自己紹介で始まった、と言っても過言ではないし、そこから始まった人間関係で楽しい高校生活を送れたとも思う。

まず黒板に自分の名前を書き、次に簡単な自己紹介をしていく、というものだった。出席番号順に一人ずつ教壇

に立っていく。皆、名前の由来や家族構成、趣味など義務的に、事務的に終わらせていく。私も自分の番が来るまで頭の中で一生懸命内容を考えた。私は元々8人きょうだいのため、それが自己紹介のネタとしては鉄板だった。しかしその時の私は「黒板に名前を書く」というところからどうしても書いた名前を使って自己紹介しなかった。何より生まれてから名前で馬鹿にされるが多かった（稲夫という漢字も、いなお、という読みからイナゴとか）ため、自分の名前がとにかく嫌だったのだ。だったらいつその名前前でいじられる、いじめられる前にネタにしておけばいいではないか、と思いついて自己紹介に辿り着いたのである。それでもやはりウケなかつたらどうしようという緊張の中、結果的にクラスで自分が認知され、友達作りも円滑にいくことになった。

その後結婚して婿に入り、名字が変わったためあのネタを使うことは無くなったが、今でもその話を覚えていてくれる友人との昔話の鉄板ネタとなっている。

## 多様性について感じること

大子田哲郎(65回生)

高校を卒業し、長い年月が経ちました。東京の大学へ進学し、起業を積みながら、米、国企業、欧州企業、日本企業、そして現在、豪州企業で働いています。様々な国、文化、立場の人々と仕事をし、常に感じるのは、多様性、それに関連して公平にもものを見ることの大切さです。

昨今の地政学的な動きの背景となつていている当事者間であり、いじめやハラスメント等の一要因となる異なる立場の人への想像力・意識の欠如、日本と海外におけるメディア報道の違いなど、様々な事象を見ても多様性を維持し、公平性を保つという事は難しいと感じる毎日です。

先日、こんなことがありました。イスラエル人の知人が来日希望を持っていたのですが、ちょうどガザにおける子供の窮状が頻繁に報じられ、東京のイスラエル大使館周辺でデモが行われていたこともあり、私の方から遠回しに延期の助言をしました。すると、彼は、自分たちはもう大

丈夫だという旨を、復旧した防空ミサイルシステムの映像と送つてよこしたのです。日本におけるメディアの報道が偏っていたこともありましたが、こうも感覚が違うのかと驚きました。

高校時代に使った参考書等はほとんど手元にありませんが、歴史と倫理の資料集や参考書は時々見返しています。特に倫理については、社会の小畑先生が非常に興味深い授業をしてくださいました。当時の授業の中でも記憶に残っている「アガペー」や「エロス」等については、歳をとるごとに捉え方も変わり、今でも勉強しています。多様性を考える上での人類普遍のものを学ぶ喜びは高校時代に育まれたと思つています。そして高校時代に触れた基本的な勉強がいかに大事だったかを感じ、生活しています。

もう、何年ぶりだろうか？ 仙石線の電車で揺られ、窓の外に目をやると、少しづつ当時の思い出が蘇つて来ました。かつて降り降りしていた無人駅のホーム。昔と変わらない景色でした。自分だけ大分歳をとつてたなと思いましたが、みんな元気にしてるかな？ 石巻に着くと、楽しみな不安な気持ちを抱きながら、同窓会の会場へ向かいました。

## あれから30余年

田代聖治(65回生)

現在、私は、東京でパスタ屋さんを営んでいます。約10年間の修行の末独立しました。他では食べられない2・5ミリの太麺(乾麺)が売りです。パンやドレッシングの他、オープン当初は、ソーセージやハムなども自家製で作っていました。しかし、なかなか軌道に乗せる事が出来ず、数年が経ちました。そんな時、パスタを製造してもらっている工場の機械が壊れてしまったので、一時的に生パスタを使用してほしいという事がありました。太麺にこだわりを持っていたので、戸惑いもありましたが、使ってみることに

にしました。すると、「生パスタ美味しい」、「こっちの方がいい」と、かなり高感触でした。しかし複雑な気持ちにもなりました。自分がこだわりだと思つていたものは、実は思い込みだったのです。この出来事を機に、太麺が売りのお店は、生パスタが売りのお店に生まれ変わりました。それからは、常連のお客さんも増え、徐々に賑やかになって行きました。

昨年には、10周年を迎えることができました。同級生達も、年に数回集まってくれるようになりました。お酒を飲みながら昔話をしていると、今はそれぞれの人生を歩んでいても、あの時の場所、同じ空気を吸って過ごした日々が、長い年月をあっという間に越えて、今一つに繋いでいるんだなと感じました。そして、自分にとって高校時代は、かけがえのない宝物だったんだと、今さらながら気付かされました。店内には笑い声が響きわたっています。宴はまだまだ続きそうです。

## 応援寄稿 私のの中の石巻

笠原秀浩(67回生)

石高67回生、現在47歳。都内公立小学校で校長をしております。笠原と申します。私の故郷は桃生郡河南町であり、旭山の麓で育ちました。あの緑豊かな山の中と比較して、鰐山の頂に位置する我が母校では、そこはかとなく港独特の臭いが漂うときに、「そろそろ雨が降るんじゃないか」と言っていたあの頃がとても懐かしいです。

## 高校時代・ウェイトリフティング部の日々

高校時代、私はウェイトリフティング部に所属していました。顧問は小畑先生。都内でいくつかのジムに通いましたが、あれほどの大胸筋をいまだかつて見たことがありません。1つ上の先輩の僧帽筋にも驚きましたが、2つ上の先輩の画力にも驚きまし



小畑先生の肖像画

た。小畑先生の肖像画を美術の橋本先生の授業で描いたらしく、1992年、ウェイトリフティング部の練習場に飾られていました。時は流れて2023年、鰐陵同窓会が本学年が幹事で開催され、久しぶりにウェイトリフティング部の記録会に顔を出しました。31年の月日が流れましたが、なんと今は亡き、小畑先生が練習場に鎮座しておりました。

## 思い出深い学校生活

学校での日常も色彩豊かでした。昼近くになると大混雑していた売店。私のお気に入りには、赤チャーハンと白チャーハン。カニパンもよく買っていました。食堂は先輩たちに難癖をつけられるんじゃないかと近づくことはありません。小学校から中学校へ上がったときの他の友人たちとのギャップに驚いたことは今でも忘れません。毎週サンデーを買ってきては授業中に読む隣人、よく寝ているのになぜか成績はいいイケメン、校内全体でそれ

ぞれの個性を否定することもなく、混沌としたカオスな状態が私が記憶する高校生活でした。特に掃除されず埃がたまっていく校舎内、茶色い硬いサンダルでカツカツ・パタパタと歩く音、体育祭や文化祭では裸になっている人を見かけないことがない、こともいい思い出です。

## 大学進学のために

高校3年次の土曜日。家で昼食を食べているときに、大学の下見をしたいと思いつき、数分後には玄関を出ていました。そんな思い付きを快く受け入れてくださったのでも、ウェイトリフティング部の先輩でした。急遽、上京したにもかかわらず、私が行きたい大学と一緒に行ってくれ、自分の部屋に泊めてくれました。その際、一緒に渋谷駅を歩きましたが、私の知っている前谷地駅と違って、歩いても歩いても駅構内が終わらないその様子に、内心では(道に迷っているんだな。)と思ったのは、申し訳ない気持ちでいっぱいです。東京にこれこれ30年住んでおりますが、渋谷駅は本当に広かったです。先輩、ごめんなさい。

## 東京での校長として

現在は、都内公立小学校で校長を務めています。教育者としての役割は重大で、毎日が学びであり、挑戦です。子どもたちの成長を支えることの喜びと責任を感じながら、彼らの未来に貢献できるように努めています。工作上、教科書会社の方々と度々お会いする機会がありますが、その際に、鰐陵同級生に出会えたのも奇跡でした。東京都教育委員会に勤めていたことがありましたが、隣の部署で宮城県出身者がいるということでも話してみたら、ウェイトリフティング部の後輩でした。学校の職場で「うちの奥さんも宮城県出身なんだよ。」と話しかけてくれた同僚の奥さんは、ウェイトリフティング部の同級生のお姉ちゃんでした。校長をしながら博士号を取得したいと考え、大学に再度通い始めました。なんと合格することができ、博士課程1年生となりましたが、その研究室に鰐陵の同級生がいたのは、どんな運命なのかと戸惑うしかありませんでした。私と鰐陵は、東京に居ても切り離せません。

## 震災と故郷への思い

2011年の東日本大震災は、私にとっても大きな出来事でした。教員として体育の授業を校庭でしているときに、プールの水が舞い上がり、校舎が斜めになっている様子は今でも忘れられません。東京直下で起きたのかと思っただけで、宮城県沖が震源ということを知り、仙台空港に水が押し寄せる映像を見て、石巻の海岸線に会社がある父親の安否が心配になりました。渋谷駅を一緒に歩いてくださった先輩の実家は完全に流されてしまいました。先輩は、献身的に復興のお手伝いをされていきました。自分は、3月の震災の翌月に東京都教育委員会に赴任し、都全体が石巻の復興をしてくださっていたのを目の当たりにしました。味の素スタジアムに避難されている方の支援に力をつけている方が何人もいらっしやいました。石巻の子供たちを応援するための施策も行っていました。そのすべてに私は積極的に関わることができませんでした。中学から高校まで生徒会やウェイトリフティング部ですつと一



67回生同期会

緒に過ごした異国でドクターをしてる友人は、国境なき医師団で石巻の支援に入っていました。何もできなかった自分に今でも後悔の念があります。一週間、連絡が取れなかった父母が健在であることを教えてくれたのも、広島にいる鰐陵の同級生でした。(学会で仲良くなった大学の先生と、その広島の同級生が仲良しだったことくらいでは、もう動揺しません。)

### 同級生との再会

2023年、鰐陵同窓会の幹事として、我々67回生が一堂に会しました。その数50名以上。卒業以来久しぶりに会うメンバーも多く、青春時代を共に過ごした仲間たちとの再会は、嬉しいものでした。年齢を重ねるごとに、過去を

共有した仲間との時間の価値がより一層増してきている気がします。

### 現在の活動とこれからの展望

2023年夏の同窓会以来、4つ下の同窓である庄司輝秋監督の「さよならほやマン」の応援で、東京在住の鰐陵生が何度も集まり、交流を

## 《会員からのお便り》 近況ハガキ(各回生)

### 安住重一(20回生)

94歳になり余命わずかなり。我が人生のラストは花盛りなり。皆様の健康を祈る。Good Luck。(大原中学校・剣道部・船乗り遠洋鮪漁船(700トン)・冷凍船(13000トン)・貨物船(30000トン)・いまでも船長です。)

### 櫻田 巖(21回生)

太平洋戦争敗戦の日は旧制中学3年生、動員先の石巻バルプ工場の庭でした。以来78年大変革の世を生き、川崎市に会計事務所を開設して57年。長男や職員に支えられて、いまだに働いています。(バスケット部・会社役員・囲碁5段)

深めています。(ちなみに監督は広島の友人の従兄弟です。何も驚きません!)主演男優が新人賞を受賞したこともあり、今後集まる機会を設けていきたいと考えています。

これからも、様々なご縁を大切にしながら、共に時間を過ごしていきたいと思っています。

### 佐々木紀雄(21回生)

体力不良のため欠席します。(東京府立第3中学校・バレーボール部)

### 阿部彦八(22回生)

同期の皆さん連絡下さい。めっきり少なくなりましたね。(新聞部・ラグビー部)

### 亀山安吉(23回生)

今回が出席の最後の機会と心待ちにしておりましたが、歳のせいとは言いたくありませんが、転倒事故を起こして参加出来なくなりました。会員諸氏の御健勝と総会の盛会を祈念します。尚、つたなき拙文をお読み頂き感謝します。(旧制石巻中学校・サッカー部)

行政書士・将棋、麻雀、読書)

### 野中 浩(23回生)

妻の老々介護の方法研究中。返信遅くなりました。参。不参については、熟慮の結果、いかにも超高齢、不測の事故を思い致し不参としました。悪しからず御宥恕の程を!(旧制中学校・化学部・税理士・多趣味)

### 佐藤允俊(24回生)

久しぶりの総会、是非出席したいと思ひ医師のアドバイスで一日2千歩以上歩くようにトレーニングをしていましたが、残念ながら義妹の一周忌法要と重なりました。10月10日に24回生の同期会が石巻でありました。18名もの参加者があり盛会だったようです。トレーニングはこの同期会に出たいためでした。暫く電車に乗っていなかったのですが、2(3度新宿まで行ってみたのですが、とても疲れがひどく諦めざるを得ませんでした。今回が最後の同期会だったので、どうしても出席したかったのですが、残念です。(旧制中学校・バレー部)

玉河信也(24回生)

元氣ですが、遠出を控えています。著書「追憶のアルバム」第3版を別便で事務所宛お送りしますので、ご笑納ください。著書「追憶のアルバム」はアマゾンに登録されており、インターネットで「アマゾン、追憶のアルバム」で検索し、後尾のGoogleで検索すると小生の著書が紹介されています。(石巻中学校・陸上競技部・日本郵船機関長)

### 石川正雄(24回生)

現在週2回(月・金)デイに通っており、多くの人とそれなりに楽しんでいきます。人間90になりますと、さすがに杖を頼りたくなりました。近くに曾孫が4人(2・4・8・10歳)おり、元気を貰っています。皆様お元気で……。(商社・読書、音楽(クラシック)、将棋、麻雀)

### 津田(鈴木)健三(25回生)

25回生の津田と申します。生まれは、もと東福田馬場41で、学校に行くのに自転車1時間15分かかりました。皆さんとの出会いを楽しみにしておりましたが、もう90才にもな



猿 (高橋英吉作)

りますので、体調が優れず、出席できません。代わりに会社のカタログをお送りします。(二俣中学校・製造業現役会長・ゴルフ、囲碁)

**中里祐二郎(25回生)**

高校時代の仲間と毎月1回の昼食会をたのしみに行っています。日常生活は週3回ほどスポーツジムで2時間ほど汗を流し、健康に気をつけている昨今です。(住吉中学校・住友生命保険相互会社)

**佐々木俊文(25回生)**

転倒骨折で生活不自由になり、出掛けることが不自由になり残念です。88歳米寿に参加したかったので、皆様のご発展を祈ります。鰐陵時代が限りなく懐かしい思い出一杯です。(住吉中学校・放送部新聞部・金融関係・音楽、旅行、読書、ゴルフ)

**本木 太(26回生)**

来年早々に米寿を迎えますが、足腰が弱り、残念ながら総会に出席できません。盛会を祈念致します。(稲井中学校)

**阿部尚之(27回生)**

お陰様で元気に生活しております。(門脇中学校・ダンス)

**徳江 明(27回生)**

散歩やポッチャなどの軽運動を楽しんでいます。ポッチャは使用するボール、床の状態により、さまざまな楽しみ方ができます。(石巻中学校・文芸部)

**小野寺康充(28回生)**

元気に都心生活を楽しんでいます。我が愛機F-86Fに因み、86歳を人生の目標に生きてきましたが、お陰様でとうやら成就することが出来そうです。今回の総会は所用のため欠席します。盛会を祈念します。(矢本中学校・物理部・航空自衛隊パイロット)

**木村莞爾(29回生)**

病気療養中です。新型コロナ禍下での苦労を糧に、さらなる発展を期待いたします。

(飯野川中学校・元全日空役員)

**半澤正義(29回生)**

今の所、可も無し不可もなしと云う所ですが、強いて云えば足腰が弱っている所かなと云う所でそれで毎日位ウォーキングに頑張ると云う所です。(赤井中学校・ラグビー部)

**山本久敬(29回生)**

左目失明のため歩行不安定。(赤井中学校・プロセスエンジニア)

**鈴木賀夫(30回生)**

腰痛がひどく、ゴルフは卒業、国内旅行を楽しんでいます。(涌谷中学校・音楽部・テレビ局・旅行、カメラ)

**畠山 尚(30回生)**

80歳代に入り急速に体調劣化。唯一の取り柄であった健康も過去のものとなりむなしの限りです。(石巻中学校・硬式野球部・ゴルフ、旅行)

**蜂谷国彦(30回生)**

令和5年7月に4年振りに帰省しました。新しい内海橋がかり、町は変わりましたが、中心街に往時の賑わいはあり

ませんでした。石巻を懐かしく、遠く感じて帰りました。(住吉中学校・文芸部・現役の頃は会社社員・ゴルフ)

**首藤光春(30回生)**

(短歌)「振り放けば鰐陵男の子意気高く応援弼し盾や剛」、(俳句)「鰐陵で学良励み額縁に」「石高や 席高誇り 鰐の陵」。(石巻中学校・野球部・句首詠み、音楽、ウクレレ)

**北川洋三(31回生)**

今年初め、2カ月半程入院しました。多発性骨髄腫という病名で現在も通院治療を続けています。半病人生活になりましたが、趣味の川柳を楽しんでいます。最近の一句、「久しぶり出そうで出ない君の名は」。最近、人の名前が出てこないことがよくあります。まあ、歳になりいろいろありますが、楽しんで生きようと思っています。(住吉中学校・青少年赤十字・化学技術者(JSR株)・太極拳、川柳)

**櫻井勝夫(31回生)**

年令相応の暮らして、人生を楽しんでいます。いつも、資料も送付いただきまして、あ

りがとうございます。御礼申し上げます。(鳴瀬第一中学校・住宅管理会社顧問、小学校の手伝い、防犯のボランティア活動・スポーツ観戦)

**阿部 弘(31回生)**

スポーツジム通い。体力維持に努めています。(鹿又中学校・軟式野球部・住宅資材卸売)

**伊藤克夫(31回生)**

コロナを契機に体調を崩し、ボランテアを縮小、体力の増強に努めています。

**奥山興悦(31回生)**

20年前に東京高裁判事を退官し、現在は少年非行対策などの仕事をしています。令和6年4月から放映のNHKの朝ドラ「虎に翼」の主人公のモデルである我が国初の女性裁判官三淵嘉子さんは、私が50年前に親しく指導を受けた恩師です。(住吉中学校・英語研究会・弁護士・囲碁、俳句)



ハガキ絵：無題 (高橋英吉作)

(次ページへ続く)

**遠山日出夫(31回生)**

お陰様で元気に過ごしております。当日は所用あり欠席致します。御盛會を祈っております。(稲井中学校・柔道部)

**猪俣 斌(32回生)**

老いを重ねながらも元気に過ごしております。(渡波中学校・野菜作り)

**櫻井庸正(32回生)**

終活の一環として浦谷の相続した土地を処分する方法で①現地の役場を訪問して「寄付」を申入れたが見事に断られた(固定資産税課及び企画課)。②次に法務局へTEL。「相続土地国庫帰属制度」を利用すべく質問した所、完全に更地に及び境界のわかる図面の提供そして今後10年間にわたる管理費用(計20万円)納入



八ガキ絵：台湾ベコの図(高橋英吉作)

せよと言われ、費用対策効果が合わず断念。③やはり当初考えた通り「不動産会社に売却の依頼」が賢明。(浦谷中学校・会社員・囲碁)

芳沢勇夫(32回生)  
体調不良のため出席できません。残念です。(女川第一中学校・俳句)

**加藤弘衛(33回生)**

体調不良のため欠席します。

**橋浦武夫(34回生)**

体調不良のため欠席します。民謡・尺八で故郷を思い調子の向上を図っています。(須江中学校・民謡、尺八)

**阿部千春(34回生)**

地域のボランティアサークルで美化、防犯活動を行っております。皆様お元気でお暮らして下さい。(小竹浜中学校・バレーボール部・住友化学KK・麻雀、掃除)

**須田紘一(34回生)**

元気にしておりますが、欠席します。皆様に宜しくお伝え下さい。(女川第一中学校・損害保険)

**相良秀夫(36回生)**

地域行事と重なり、残念ながら欠席です。ご盛會を祈念しております。

**阿部 貢(37回生)**

週3回のグラウンドゴルフで健康づくりにはげんでいます。(鮎川中学校)

**遠藤順政(37回生)**

妹の13回忌と父の17回忌を今年3月に行い、石巻に帰省しました。末永隆紀君が6月に逝去、児玉君と共に自宅にお見舞いに伺ったのが最後となりました。今日は成沢良夫君の訃報を伺い、さびしくなりました。(渡波中学校・放射線計測、開発、設計技術・カラオケ、散歩)

**今野和明(37回生)**

義兄法要のため欠席します。酒と週一ゴルフとお馬の運動会楽しんでます。盛會を祈念!(大塩中学校)

**境田憲男(37回生)**

元気にしており総会で皆様にかうのが楽しみです。若手(65歳以下)の参加を願っています。(湊中学校・ラグビー部)

**榊勝一郎(37回生)**

コロナ禍で外出を控え、その習慣がつかまりました。山行だけは足の衰え防止で続けています。老人会の活動がぼちぼち始まりました。(大川中学校・テニス部・演劇部・コンサルタント・山登り)

**佐々木貞雄(37回生)**

盛會をお祈り致します。(住吉中学校)

**茂木幸夫(37回生)**

昨年中国より帰国。体力の劣化を感じる今日この頃です。(門脇中学校・化学部・工作機械、生産技術・読書)

**山下政志(37回生)**

長野県伊那谷の田舎暮らしも8年目を迎えます。お陰様で元気にすごしています。東京、鰐陵の市橋功先生の記事をなつかしく読ませて頂きました。私達の頃は、ラグビー部は部員不足で大変でした。石高時代のラグビー仲間と会いたいですね。東京在住の折は鰐陵総会に参加して居たのですが、田舎暮らしが長くなり東京は遠い所となっています。元気な内にまた総会に参加したいと

思います。(門脇中学校・ラグビー部・古道具屋「山下亭」・英国古代遺跡めぐり)

**阿部盛行(38回生)**

〈続編〉令和5年3月全国選抜ボート大会(於浜松)で、ダブルスカル3位(ちよっとの隙をつかれた)に、7月のインターハイ(於網走)は、娘達が応援に駆け付け準優勝。ボート強豪校の名を全国に知らしめました。石高における「早川3兄妹」の活躍はうっ屈の高校時代を過ごした私のうっ憤を払拭してくれました。2番目の孫は東北大学院へ進み、食物関係の研究開発に取り組んでいます。両手で数えて足りるこれからの人生の私の秘かな楽しみです。次回続々編に乞うご期待。(女川第一中学校・柔道部・シルバー人材・旅行、太極拳、手話)

**熊谷明俊(38回生)**

年令相当に身体のいたる所が衰えてきました。特に両足(脚)が不調です。自宅を中心に半径1Kmをウロウロして衰えを減速(?)させております。今回は誠に残念ですが両脚が今ひとつなので、欠席と



少女と牛 (高橋英吉作)

させていただきます。(浦谷中学校・1年次のみ剣道部・会社従業員)

**佐々木正秀(38回生)**

退職後、会社OB会釣部の会長、地元町内会の会計担当役員を仰せつかり、その合間に釣りに行ったりで結構忙しく過ごしています。皆様のご健勝を祈念いたします。(北上町橋浦中学校・海釣り)

**船山浩志(38回生)**

60歳を過ぎてダイビングにはまり、沖縄や海外で潜っています。(石巻中学校・生物部・スキューバダイビング)

**岩崎宏幸(39回生)**

総会のご案内ありがとうございます。3月末に町会長職を退任してから民生委員、又幹事として地元を歩いています。元気な高齢者が多いことや独

り住まいの方の多さに、改めて驚くと共に、町会活動とは違う難しさを感じています。(石巻中学校・理科実験クラブ・銀行・損害保険・家庭菜園他諸々)

**熊谷道夫(39回生)**

ポストコロナの時代となりました。相変わらず医者通いはしていますが、何とか元気に過ごしています。(石巻中学校・元国家公務員・ゴルフ)

**今野雅隆(39回生)**

本年6月18日(日)第1回「39鰐陵会」が「乗蔵うたげ」有楽町駅前店で開かれました。会員は11人で、今後年1〜2回程度の開催を目指すことを申し合わせました。今回の参加者は9人：会の拡大も目指します。(石巻中学校・地方公務員)

**佐藤泰助(39回生)**

退職して今年で早10年。何とかコロナ禍も生延び、大禍なく過ごしています。コロナ禍前に百寺巡礼の旅を終え、コロナ禍後の今は文化庁認定の重要伝統的建造物群保存地区(全国126箇所)の踏破をめ

ざして旅行を企画し全国を旅している最中です。やっと半分。健康とお金が続く限り、80歳位までに全て巡りたいと考えています。(門脇中学校・会社員、自動車部品製造会社勤務・大相撲観戦、国内外旅行)

**平塚雄治(39回生)**

小生はこの3年間余り体調が悪く、事業を行っておりませんが会社を休業扱いにしております。大変申し訳ございませんが都内までの移動に自信が持てず欠席させて頂きたく宜しく致します。(門脇中学校・野球部・植木、花植えなど)

**渡辺総一(40回生)**

盛会をお祈りいたします。当日はあいにく京都の関西セミナーハウスで個展と絵の講演のため欠席させていただきます。(石巻中学校・バスケット部(1年生のみ)・画家、絵画教室主宰・映画鑑賞)

**今野洋一(41回生)**

週3日、国立病院の防災センターに勤務しています。(石巻中学校・㈱リコー、東京地

裁・旅行、映画鑑賞)

**菅原新也(41回生)**

俳句三昧です。(箕岳中学校・水泳部)

**村上圭司(42回生)**

現在、JAXA宇宙科学研究所にて、気球実験の技術支援をしています。今回の総会は所用により欠席します。盛況をお祈りいたします。(住吉中学校・電機メーカー、技術コンサル(現在)・ゴルフ)

**阿部敏之(42回生)**

70歳を超え、元気に暮らしています。(石巻中学校・ゴルフ)

**村田 彰(42回生)**

相も変わらず主夫業と下手なゴルフ、ピアノ等忙しく過ごしております。皆様に宜しくお伝え下さい。(石巻中学校・バスケットボール部・建設会社・ゴルフ、ピアノ、ギター)

**伊藤輝昭(42回生)**

先日、同期会をしたので、今回は欠席します。(渡波中学校・不動産)

**松谷 昇(43回生)**

70歳を超えましたが、趣味の卓球を楽しんでいます。(矢本中学校・電気・卓球)

**今藤幸一郎(43回生)**

障害者ではありませんが、フルタイムで仕事に従事しています。今回は残念ですが、欠席致します。(門脇中学校・人文科学部・会社員・運輸)

**矢野光雄(43回生)**

去年70歳にて退職しました。毎日のんびり過ごしています。今回は欠席します。(矢本第一中学校・ラグビー部・昨年70歳にて退職・ウォーキング、サイクリング)

**吉田祐一(43回生)**

当日仕事のため欠席致します。(東浜中学校・軟式テニス部・能楽師)

**平山 博(44回生)**

卒業して以来会うことのない、その縁で東京鰐陵会に65歳から参加するようになりました。それから3年以上コロナのために開催されず、今回にいたります。65歳に陸上部

の同級生との再会からその後音信をやりとりして、東京で同級会も開催しました。ほとんど知らない人もいましたが、すぐ打ち解け、ただただ楽しい1次会・2次会となりました。なぜ今まで高校の同級生と会わなかったのだろうかと考えました。結果的に卒業してから50年以上の日はたちますが、その時間がなかったように昨日会ったような感覚でした。(雄勝中学校・陸上部・登山)

#### 高橋政昭(44回生)

横浜で元気に暮らしております。(湊中学校・バスケットボール部途中退部・自動車部品・旅行他)

#### 伊藤 隆(46回生)

関東ラグビー協会(理事)にて、コーチ委員長、競技委員長等しております。(雄勝中学校・ラグビー部・年金生活)

#### 伊藤哲郎(46回生)

久し振りの東京鰐陵会の開催を大変喜ばしく感じております。私事のため欠席させていただきますが、毎回送られてくる会報を眺める度に世代を超え

たストーリーや情報が溢れていて、私の気持ちの栄養素になっていきます。私はノンアルコール生活4年目に入り、元気に平穩に暮らしています。再会の日を楽しみにしています。(湊中学校・(元)専門学校・大学教職員・(現)オンライン英語教室講師)

#### 及川和彦(47回生)

3月で仕事(サラリーマン)をやめました。今後は地域のために活動して行こうと思ひ、倉見神社の役員を引受けました。現役時から続けて来たボランティア活動も継続していきます。けっこう忙しい毎日です。(石巻中学校・物理クラブ・システムエンジニア・テニス、ジョギング、野菜作り)

#### 佐藤敦彦(47回生)

2023年5月末に仕事をリタイヤ(退職)しました。今は



母子像 (高橋英吉作)

親の介護で自宅と実家を行ったり来たりしています。(門脇中学校・ワンダーフォーゲル部・会社事務員・サイクリング)

#### 明石和彦(48回生)

現役引退後、本年7月から3か所目の転職で某工業会で働いています。来年は参加できるようにスケジュール調整したいと考えています。(豊里中学校・団体役員)

#### 荒木泰弘(48回生)

なんとか元気にやっております。今回は都合により欠席致します。久しぶりの総会、ご盛会を祈念致します。(門脇中学校・軟式テニス部・自営業)

#### 石川洋二(49回生)

取りまとめありがとうございます。そして、御苦労様です。(住吉中学校・ラグビー部・内外日東(株)勤務・スポーツ観戦、ゴルフ)

#### 高橋 悟(50回生)

元気にまだ働いています。家内を癌で亡くしましたが12月に結婚します。(矢本第一中学校・重量挙げ部・会社員・テニス)

#### 森口秀志(51回生)

51回生は毎年2月第一金曜日に東京同級会を開催しています。仙台でも定期的に開催しているようです。(門脇中学校・文芸部・生徒会・自営業)

#### 大内 浩(52回生)

本日診療中につき欠席いたします。コロナ禍4年弱で3千人以上の陽性患者さんを診ました。(広瀬中学校・応援団・医師)

#### 末永仁一(59回生)

4月から永田町の都道府県会館にある宮城県東京事務所勤務しています。県人会活動では加藤会長はじめ役員の皆様に大変お世話になっております。湊出身で71回生の庄司照秋さんが監督した映画「さよならほやマン」が新宿ピカデリーほかで上映されています。オール網地島ロケで震災で両親を亡くした兄弟が主人公です。皆さんぜひご覧ください。(渡波中学校・柔道部)

#### 佐々木克人(60回生)

お世話になっております。仕事のため欠席です。

#### 渡邊公威(64回生)

今年度より、母校である国立音楽大学声楽科にて教鞭を取り始めました。日々勉強です。(石巻中学校・吹奏楽部・オペラ歌手・大学講師・料理、鉄道)

#### 色川賢史(67回生)

石高の先輩方、同級生、後輩の皆様のご活躍をお祈りしています。(渡波中学校・硬式野球部・出版社人事・石高の県予選、甲子園観戦)

#### 木村祐介(75回生)

ご無沙汰しております。変わらず大田区の会社に勤め、元気に過ごしております。今回は九州に出張の為、参加できないのは大変残念ですが、皆様のご健康と楽しい会になりますますことをお祈りしております。(湊中学校・柔道部・電設資材商社営業・温泉、サッカー観戦)

P4～P5、P19～P22に掲載されている「高橋英吉の作品」の写真は「石巻市博物館」より提供頂きました。  
ここに「石巻市博物館」のご理解とご協力で感謝と共に心より御礼申し上げます。

# 「アフターコロナの学校生活」(学校の様子)

鰐陵同窓会事務局長 二階堂 守宏(57回生)

令和5年の5月にコロナが5類に移行してからは、ほぼ通常の学校生活を送れるようになりました。生徒も充実した学校生活だったと思います。

## ◆主な学校行事

4月8日に始業式・入学式を行いました。4年ぶりに体育館で実施しました。1年生の入学後は恒例の対面式でしたが、上級生のお

どしのような罵声もなく一部の生徒会代表との対面式となりました。応援練習は通常通り行い、以前のような活気のある応援練習が行われました。5月には生徒総会・壮行式がありました。体育館に全校生徒が参加して行いました。全校生徒参加で総体の壮行式を行い、試合に挑む生

徒にとっては大きな励みになったことと思います。6月には鰐陵総体(体育祭と球技大会)を通常通り実施しました。各クラスともカラフルなチームTシャツを揃え華やかな大会となりました。男女別の種目やクラス対抗の形をとって実施しています。6月20日市民球場におい

て第63回石巻商業高校対石巻高校定期戦が行われました。定期戦としては4年ぶりの開催となり、生徒は初めての定期戦の雰囲気を感じる事ができました。試合は両校、乱打戦となり白熱した試合が展開され、結果は13対2で本校の勝利で幕を閉じました。試合後、応援団を中心に校歌やエールを全力で歌う姿がありました。

8月には文化祭を実施、一般公開も実施しました。たくさんの方々が来校し、保護者、卒業生が来校し、生徒にとっても良い思い出ができました。10月は強歩大会(マラソン大会)が行われました。校外での活動自体が制限されていきましたので、校外での活動で生徒達も元気に参加していました。

また、11月末から修学旅行がありました。コロナの期間中はクラス毎に関東・東北中心の旅行でしたが昨年からは通常通りの関西方面に行きました。2月29日には同窓会入会式を行いました。3年生が卒業と同時に鰐陵同窓会に入会す



応援練習



体育館での入学式



鰐陵総体



総体壮行式



文化祭 書道パフォーマンス



対石商 定期戦



修学旅行



強歩大会



卒業式



入試結果横断幕

ることとなりました。

青木利光同窓会長の歓迎の挨拶に続き、入会記念品の卒業証書ホルダーを手渡し、代表生徒から入会の挨拶をしてもらいました。96回生176名が新会員として加わりました。

3月1日に卒業式を実施しました。従来通り出席は卒業生と保護者、在校生でした。男女共学化になり18年目、男子はスーツ、女子は袴姿が多くなり、華やかな卒業式に変わってきました。

生徒達はこのように学校行事や学習・部活動に熱心に取り組む「文武両道」の実現に努力しています。

◇令和6年度 進路状況

(令和6年3月末現在)

今回の入試は東京大理科二類、東北大6名など難関大合格もあり、よく健闘しました。

【主な合格先(人数)】

◎国公立大学(80)

- 東京大(1) 東北大(6)
- 宮教大(7) 弘前大(2)
- 岩手大(6) 秋田大(2)
- 山形大(13) 茨城大(1)
- 宇都宮大(6) 埼玉大(5)
- 千葉大(1) 新潟大(3)
- 東京学芸大(1) 宮城大

(11) その他(15)

◎私立大学(301)

- 東北学院(61) 東北工大(31)
- 東北福祉大(35)
- 東北医薬大(11) 宮城学院女子大(10)
- 東北文化学園大(5) 文教大(2)
- 千葉工大(1) 青山学院(1)
- 北里大(4) 杏林大(2)
- 駒沢大(4) 芝浦工大(6)
- 中央大(1) 東海大(5)
- 国際基督(1) 東京農大(7)
- 東洋大(7) 日本大(7)
- 法政大(5) 明治大(1)
- 関東学院(4) 神奈川大(7)
- 立教大(3)
- ◎その他(80)
- 短期大学(1) 看護学校(17)
- 各種専門学校(4) 公務員(5)

◇令和5年度各部活動の活躍

6月の県高校総体は通常通り開催されました。3年生にとつて最後を飾る大会であり、東北大会、全国大会への予選会でもあり、各部ともよく健闘し、ボート部、ヨット部、ウエイトリフティング部が全国大会への出場権を獲得しました。インターハイではボート部の女子ダブルスカルが2位に入賞するなど素晴らしい活躍を見せてくれました。

また、文化部も活躍し全国大会へ出場しています。全国大会での成績は次の通りです。(名前の後の○数字は学年)

■全国大会

◎インターハイ

・ボート競技

- 【男子シングルスカル】高橋汰季③ 第5位
- 【男子ダブルスカル】樋口晴丸②、門間悠隼② 準々決勝
- 【男子舵手つきクオドルプル】古川皓汰朗②、鈴木伯史②、阿部瑠聖②、阿部慎平②、武山朋生② 準決勝進出
- 【女子ダブルスカル】早川美鈴③、井上美空③ 第2位
- 【女子シングルスカル】



同窓会入会式 青木会長挨拶

岩渕直佳② 予選敗退

・ヨット競技

【男子420級】

- 石垣歩純②、小泉廉太郎 第40位
- 千葉一輝②、阿部浩也② 第44位
- 【男子レーザーラジアル級】佐藤好晟② 第28位
- 齋藤颯人② 第32位
- 【女子420級】齋藤麻央③、阿部汐里③ 第21位
- ◎ウエイトリフティング全国女子大会(女子64kg級) 佐々木里那③ 第24位
- ◎全国高等学校総合文化祭(新聞部) 千葉天富③、木村祥梧②
- ◇同窓会事務局より
- 4年ぶりの総会について



ボート部 インターハイ2位

同窓会総会はコロナのため令和2年〜4年まで中止となりましたが、令和5年度の総会は8月12日(土)に開催し、盛会のうちに終えることが出来ました。

3年間中止になっていたことから、主管回生も3年間は2学年の回生にお願いすることとしています。令和5年度は66・67回生に主管回生をお願いしました。

◇百周年記念事業の進捗状況(報告)

石巻高校は令和5年4月に創立百周年を迎えました。記念式典は令和6年11月8日(金)を予定しています。本来であれば百一年目の令和5年に実施予定でしたが、ここ3年ほどのコロナ禍で



令和5年度総会



百周年横断幕



百周年の式典・講演会の会場



鰐陵会館 フローリング工事完了

準備が遅れているために、1年遅れの実施となりました。

現在、百周年に向けて学校と同窓会が中心となり準備を進めており、今までの周年事業と同様に実行委員会を設立して行います。

令和4年の2月には実行委員会を設立、また令和5年の3月に役員会を開催し実施日程、記念講演会講師を決定しました。

実行委員長には同窓会より青木会長が、各事業などの重要な役割に副会長が就任しました。同窓生の皆様のご協力よろしくお願いいたします。

なお、百周年記念事業は次のような内容を予定しています。

【開催日】

令和6年11月8日(金)

※式典・講演会・祝賀会は同日に実施

【記念式典】

午後1時～

【会場】

マルホンまきあーとテラス

(石巻市複合型文化施設)

〒986-0032

石巻市開成1-8

電話0225985630

【記念講演会】

午後2時45分～

(マルホンまきあーとテラス)

講師：高砂淳二氏(53回生)

自然写真家

「Wild life Photographer of the Year」

自然芸術部門 最優秀賞

【祝賀会】

午後6時～

【会場】

石巻グランドホテル

〒986-0827

石巻市千石町2-10

電話0225938111

【記念誌編集】

令和6年11月発行予定

今回の記念誌は卒業生の日野淳君(67回生)が代表を務める口笛書店に編集等も依頼しました。内容も工夫を凝らしたものとなりそうです。

【記念(整備)事業】

鰐陵会館フロアリング工事

その他

【同窓会報(百周年記念号)】

令和7年2月発行予定

主に百周年の企画や行事を載せる予定です。

トピックス

映画『潮音 ある愛のかたみ』東京

上映会報告 東京鰐陵会事務局次長 小田島孝好(43回生)

この映画は、石巻出身の彫

刻界の鬼才といわれた高橋英

吉氏の生涯を描いた作品です。

会場は、東京鰐陵会会員で

東京芸術大学を卒業し、現在

芝浦工業大学教授である谷口

大造氏の紹介で、同大学豊洲

キャンパス 阿出川シアター

をお借りしました。

開催日は、2024年6月

9日(日)。

石巻市博物館、東京鰐陵会、

東京みやぎ石巻圏人会、石巻

学プロジェクトが共催。後援

として、12の石巻関連の団体

が名を連ねた。

当日には約90名が参加しま

した。

イベントは、司会(瀬川徹

氏)によって進行された。先

ず、共催団体の代表者として、

東京鰐陵会の加藤友成氏が開

会挨拶を行い、その後、後援

団体の代表者の紹介が行われ

た。

上映会に先立ち、石巻学ブ

ロジェクト代表の大島幹雄氏

の挨拶があり、後、大島氏の



会場風景

(次ページへ続く)



会場風景

私は、映画のテーマとなっている「ある愛のかたみ」の

同年、軍隊に招集され、1942年にガダルカナル島で戦死した。戦時下でも流木と手製のみで「不動明王」を彫り、それが戦死の報とともに妻のもとに届けられました。

私は、映画のテーマとなっている「ある愛のかたみ」の

同年、軍隊に招集され、1942年にガダルカナル島で戦死した。戦時下でも流木と手製のみで「不動明王」を彫り、それが戦死の報とともに妻のもとに届けられました。

母校である石高図書館に「聖観音像」が保管されているのは見たことはあるが、どなたの作品かも知らず過ぎしたことを恥ずかしく思った次第である。

また、国民の幸せや文化、遺産を無にする戦争の悲惨さも改めて認識した。

引き続き、講演会が開始された。

講演者は大島幹雄氏です。

大島幹雄氏は、石巻学が8号目を迎え「生きていく高橋英吉」の特集を組むことになった経緯や取材中の発見、英吉氏の遺児である高橋幸子さんへの取材を通して感じたことなどを詳しく説明しました。特に、全国ソロモン会の方と、別テーマで話

意味がひしひしと感じられた。亡くなった母への思慕、そして生まれ来るわが子への愛が、作品の一つひとつに込められていた。それと同時に、自分の理想と制作中の作品との戦いの結果として生まれてくる作品に対する気迫の凄さを感じた。

また、高橋英吉氏の三部作が石巻市博物館に展示されていることも紹介されました。

最後に、東京みやぎ石巻圏人会会長の小林美恵子氏からご挨拶があり、閉会となった。

●まとめ

本上映会は、石巻出身の彫刻家・高橋英吉氏の生涯と作品を通じて、彼の芸術への情熱と戦争のむなしさを改めて考える貴重な機会となりました。参加者からも感動の声が多く寄せられ、大変意義深いイベントとなりました。

《後援団体》石巻市、石巻商工会議所、石巻市芸術文化振興財団、宮城県石巻高等学校、鰐陵同窓会、石巻好文館高等学校同窓会、関東支部、石巻商業高等学校同窓会、関東支部、石巻工業高等学校同窓会、関東支部、東京湊中会、東京住中会、東京石中会、石巻市門脇中学校同窓会、関東支部

しているうちに、互いに高橋英吉氏のことを調査していることに、互いに驚いた旨の話がありました。私もまた、高橋英吉氏の偉大さを改めて感じました。

また、高橋英吉氏の三部作が石巻市博物館に展示されていることも紹介されました。

最後に、東京みやぎ石巻圏人会会長の小林美恵子氏からご挨拶があり、閉会となった。

●まとめ

本上映会は、石巻出身の彫刻家・高橋英吉氏の生涯と作品を通じて、彼の芸術への情熱と戦争のむなしさを改めて考える貴重な機会となりました。参加者からも感動の声が多く寄せられ、大変意義深いイベントとなりました。

《後援団体》石巻市、石巻商工会議所、石巻市芸術文化振興財団、宮城県石巻高等学校、鰐陵同窓会、石巻好文館高等学校同窓会、関東支部、石巻商業高等学校同窓会、関東支部、石巻工業高等学校同窓会、関東支部、東京湊中会、東京住中会、東京石中会、石巻市門脇中学校同窓会、関東支部

## 第4回 東京鰐陵会 オーブンゴルフコンペ開催される

東京鰐陵会 幹事 千葉保宗(34回生)

コロナ禍による影響で東京鰐陵会総会が延期になっており、ゴルフコンペも当然延期になっておりました。やっとコロナ禍も沈静傾向がみられ、総会が開催されることからゴルフコンペも再開しようとの有志の方の声がかかり、この度4回目の開催が実現しました。

第4回東京鰐陵会オーブンゴルフコンペは令和5年9月20日(水)東京五日市カントリー倶楽部で開催いたしました。当初の計画では、5組20人の参加を予定しておりましたが、最終的には3組9人となりました。

今年猛暑日が続いており、9月になったら少しは秋らしくなるかなと思っておりましたが、相変わらずの暑さで、一時は熱中症を心配しました。さすが、お彼岸が近くなると朝晩がめっきり涼しくなり、楽しい一日を過ごすことが出来た次第です。

結果は、優勝は鈴木雅芳(48回生)さん、二位は久保文征(34回生)さん、三位は瀬川徹(40回生)さんでした。

久しぶりのコンペで皆さん楽しく回られホールアウト後のパーティではゴルフ談議で盛り上がりました。次回も開催しようとの話が出た次第です。次回には多くの皆さんの参加をお待ちしております。



運営資金援助協力者名簿 (2024年8月20日現在)

回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名	回生	氏名
20	安住 重一	33	木村 貴則	38	丁子 幹雄	43	若山 栄作
21	佐々木紀雄	33	熊谷 正茂	38	長沼 金彌	43	伊藤 純一
21	櫻田 巖	33	堀内 文夫	38	早川 誠	43	遠藤 洋治
22	阿部 彦八	33	阿部 倫夫	38	横田 幸治	43	吉田 祐一
23	野中 浩	33	橋浦 武夫	38	渡部 正昭	43	今藤幸一郎
24	玉河 信也	33	金子 賛	38	熊谷 勝義	43	松谷 昇
24	高山 研造	33	武山 洋治	38	佐々木正秀	43	鈴木 実
24	佐藤 允俊	33	木村日出夫	38	小池 泰	44	青木 良有
25	阿部 剛	34	明石 公夫	38	大林 正人	44	岩崎 由次
25	高橋 清記	34	内崎 光助	39	今野 雅隆	44	尾口 仁志
25	武山 勝	34	岡部 勇太	39	阿部 重雄	44	高橋 政昭
25	中里祐二郎	34	佐藤 洋一	39	岩崎 宏幸	44	半澤 竹彦
25	吉野 敏	34	武山 佑三	39	及川 舜	44	日野 和徳
25	佐々木俊文	34	千葉 保宗	39	熊谷 道夫	44	平山 博
25	山下 文祥	34	阿部 千春	39	佐々木俊教	44	辺見 義一
25	津田 健三	34	久保 文征	39	佐藤真木男	45	栗崎 淳一
26	三宅 宗議	34	荒木 正司	39	佐藤 泰助	45	斎藤 知行
26	崎野 隆三	34	佐々木孝三	39	松谷 敬	45	星 裕亮
26	本木 太	34	西條 修	39	畠山 廣造	45	四野見喜久男
27	平塚 久義	35	遠藤 信行	40	阿部 義治	45	伊藤 茂
27	平山 貞夫	35	星 皓一	40	石森 雅文	45	高橋 修
27	吉田 貢	35	星野 捷二	40	岩崎久仁夫	45	三浦 洋次
27	阿部 尚之	35	本木 信	40	加藤 友成	45	山崎 義二
27	石田 三成	36	阿部 禎一	40	斎藤 紀夫	45	新田 裕史
27	船田 清孝	36	阿部 長光	40	佐々木 進	45	渡辺 信彦
27	徳江 明	36	菊地 潔	40	佐々木清光	45	本郷 耕基
28	成澤 良	36	三浦 亨	40	潮川 徹	46	阿部 順市
28	小野寺康充	36	阿部 禎一	40	高橋 憲司	46	伊藤 隆一
29	今井寅三郎	36	菊地 潔	40	田村 隆	46	佐藤 賢一
29	今野 勝幸	36	高橋 賢二	40	平塚 善伸	46	佐藤 浩二
29	千葉 慶胤	36	相良 秀夫	40	山口 廣治	46	伏見 洋之
29	千葉 弘二	36	大森 彬	40	渡辺 総一	47	及川 和彦
29	安部 正剛	36	藤 俊治	40	平塚 善伸	47	佐藤 敦彦
29	高橋佐四郎	36	梅澤 智	40	萬代 玄	48	鈴木 雅芳
29	山本 久敬	37	安住 知彦	41	斉藤 巧	48	加藤 博
29	木村 莞爾	37	遠藤 信雄	41	佐々木 洋	48	明石 和彦
30	木村 長人	37	木田 洋	41	佐藤 幸男	49	横江 敏勝
30	首藤 光春	37	埜田 憲男	41	高橋 兵一	50	伏見 英敏
30	高橋 洋	37	佐藤 悠	41	沼倉 寿男	50	高橋 悟
30	今野 未治	37	砂金 正郎	41	藤原 秀悦	51	森口 秀志
30	田中栄太郎	37	丹野 静也	41	宮増 秀一	51	長谷川浩司
30	渡辺 武	37	千葉 徹	41	山形 明夫	52	伊勢 浩明
30	畠山 尚	37	村井 善郎	41	遠藤 栄松	52	高橋 章建
30	蜂谷 国彦	37	阿部 貢	41	梶谷 鉄朗	52	大内 浩
30	鈴木 賀夫	37	伊藤 孝道	41	小関 真悦	53	末永 耕三
31	桑島 馨	37	遠藤 順政	41	菅原 新也	56	星野 知倫
31	阿部 弘	37	高橋佐千郎	41	中村 雅俊	59	大橋 英之
31	伊藤 克夫	37	今野 和明	42	鈴木 卓郎	59	末永 仁一
31	遠山日出夫	37	佐々木真雄	42	田口 敏明	60	木村 英昭
31	奥山 興悦	37	榊 勝一郎	42	新田 輝夫	62	成家 新一
31	飯田 勝紀	37	西條 紀昭	42	伊藤 輝昭	63	的場 一成
31	北川 洋三	37	白鳥 隆幸	42	伊藤 信一	65	大和 優雅
31	櫻井 勝夫	37	布施 健	42	村上 圭司	67	笠原 秀浩
32	手代木 扶	38	安住 豊	42	土屋 清治	67	勝又 秀光
32	阿部 隆雄	38	阿部 盛行	43	伊藤 純一	67	草刈 敏幸
32	角田 守弘	38	和泉 耕二	43	遠藤 洋治	67	今野 啓之
32	鎌田 一郎	38	尾形 慎次	43	小田島孝好	67	佐藤 剛史
32	後藤 嘉巳	38	熊谷 勝義	43	佐々木哲雄	67	佐藤 祐介
32	猪俣 斌	38	熊本 正義	43	佐藤 雅洋	67	比毛 寛之
32	木村 久	38	小山 慶孝	43	佐藤 休三	75	木村 祐介
32	櫻井 庸正	38	館澤 佑	43	成澤 貴義	90	真龍 竜大

■高額寄付者：平山貞夫 (27 回生)

(敬称略)

合計244名 / 1,604,500円

2022年度 東京鰐陵会 収支報告書  
自 2021年10月1日 ~ 至 2022年9月30日

東京鰐陵会 会長 加藤 友成  
会計担当 新田 輝夫

収入の部

科目	収入金額 (円)	摘要
前期繰越金	1,224,379	2021年10月1日現在繰越金
一般		
一 協力金	0	
一般 運営資金援助	748,797	会員からの運営資金協力金 (208名)
収入 雑収入	11	郵貯利子
収入 小計	748,808	
総収入		
一般会費	0	
来賓ご祝儀	0	
収入 小計	0	
収入合計	1,973,187	

支出の部

科目	支出金額 (円)	摘要
一般		
一 会議費	16,100	会議室使用料
一般 会誌発行費	200,310	1,900部印刷 (デザイン・製作費・印刷費・諸経費)
一般 ホームページ維持費	14,498	サーバー利用料、ドメイン名更新料
支出 交通費、会費、広告費	10,152	本部会報広告費
支出 通信費、雑費	178,424	封筒代、郵送料、メール便発送費等
支出 小計	419,484	(一般収支差額 329,324円)
総支出		
宴会費	0	宴会会場費・飲食代、講演者お車代等
準備費用	59,388	「書面総会資料」印刷代、メール便発送費等
支出 関係事務・雑費	14,274	後納ハガキ料金等
支出 小計	73,662	(総会収支差額 -73,662円)
支出合計	493,146	

収支の差額	1,480,041	次期への繰越金
-------	-----------	---------

現金	54,707
郵便貯金	1,425,334

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。

2022年10月15日

監事 佐藤 悠 印  
監事 熊谷 勝義 印

2023年度 東京鰐陵会 収支報告書  
自 2022年10月1日 ~ 至 2023年9月30日

東京鰐陵会 会長 加藤 友成  
会計担当 新田 輝夫

収入の部

科目	収入金額 (円)	摘要
前期繰越金	1,480,041	2022年10月1日現在繰越金
一般		
一 協力金	215,804	理事会懇親会会費@5,500円×37名=203,500円
一般 運営資金援助	519,000	運営委員会からの寄付金12,304円
収入 雑収入	14	会員からの運営資金協力金 (143名)
収入 小計	734,818	郵貯利子
総収入		
一般会費	0	
来賓ご祝儀	0	
収入 小計	0	
収入合計	2,214,859	

支出の部

科目	支出金額 (円)	摘要
一般		
一 会議費	220,400	理事会懇親会費用@5,500円×37名=203,500円 会議室使用料16,900円
一般 会誌発行費	174,770	2,000部 (デザイン・製作費・印刷費・諸経費)
一般 ホームページ維持費	14,498	サーバー利用料等
支出 交通費、会費、広告費	122,766	鰐陵同窓会本部会報広告代、総会参加費
支出 通信費、雑費	152,290	封筒代、郵送料、メール便発送費等
支出 小計	684,724	(一般収支差額 50,094円)
総支出		
宴会費	0	宴会会場費・飲食代、講演者お車代等
準備費用	21,890	「総会案内」印刷代、封筒代等
支出 関係事務・雑費	0	後納ハガキ料金等
支出 小計	21,890	(総会収支差額 -21,890円)
支出合計	706,614	

収支の差額	1,508,245
-------	-----------

現金	13,897
郵便貯金	1,494,348

上記監査の結果、正確・適正に処理されていることを認めます。

2023年10月14日

監事 佐藤 悠 印  
監事 熊谷 勝義 印

2024年 東京鰐陵会役員名簿(敬称略)

役職	回生	氏名	役職	回生	氏名
参与	33	木村 貴則	理事	38	和泉 耕二
参与	34	千葉 保宗	理事	38	丁子 幹雄
参与	37	丹野 静也	理事	40	阿部 義治
参与	37	境田 憲男	理事	40	斎藤 紀夫
監事	37	佐藤 悠	理事	41	高橋 兵一
監事	38	熊谷 勝義	理事	41	沼倉 寿男
会長	40	加藤 友成	理事	41	山形 明夫
副会長	40	瀬川 徹	理事	42	茂泉 吉則
副会長	40	平塚 善伸	理事	42	鈴木 卓郎
事務局長	43	伊藤 純一	理事	42	新田 輝夫
事務局次長(会計担当)	42	新田 輝夫	理事	42	田口 敏明
事務局次長(会計担当)	43	遠藤 洋治	理事	43	伊藤 純一
事務局次長	43	小田島孝好	理事	43	小田島孝好
事務局次長	44	尾口 仁志	理事	43	成澤 貴義
理事	22	鈴木 善治	理事	43	吉田 祐一
理事	25	中里祐二郎	理事	44	岩崎 由次
理事	25	武山 勝	理事	44	尾口 仁志
理事	28	成澤 良	理事	44	半澤 竹彦
理事	29	千葉 弘二	理事	45	四野見喜久雄
理事	29	今野 勝幸	理事	45	新田 裕史
理事	30	木村 長人	理事	46	森田 弘志
理事	30	首藤 光春	理事	46	佐々木 清
理事	31	奥山 興悦	理事	48	鈴木 雅芳
理事	31	桑島 馨	理事	49	平塚 仁
理事	32	小野寺義昭	理事	50	伏見 英敏
理事	32	手代木 扶	理事	52	大内 浩
理事	33	熊谷 正茂	理事	55	谷口 大造
理事	33	堀内 文夫	理事	56	亀山 光浩
理事	34	久保 文征	理事	56	星野 知倫
理事	34	佐藤 洋一	理事	58	浅野 剛
理事	34	武山 祐三	理事	59	佐藤 昌克
理事	35	平塚 征一	理事	62	成家 新一
理事	36	阿部 長光	理事	65	大和 優雅
理事	36	菊地 潔	理事	65	平井 大之
理事	37	村井 善郎	理事	67	笠原 秀浩
理事	38	安住 豊	理事	67	佐藤 祐介
理事	38	早川 誠			

第31回 東京鰐陵会総会のお知らせ

- 日時：令和6年11月30日(土) 12:00～15:00(受付開始11:00)
  - 会場：「喜山倶楽部：平安の間」  
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋2-6-2 日本教育会館9階  
Tel：03-3262-7661 URL：https://kizan-club.com/
  - 会費：10,000円(学生会費2,000円)  
※会費は当日受付でお納め下さい  
(会費内訳/総会参加費:9,000円、東京鰐陵会運営資金:1,000円)
- 恐れ入りますが、11月15日(金)までにお申し込みください。  
※詳しくは東京鰐陵会HPをご覧ください。  
https://www.gakuryou.com/

**東京鰐陵会ホームページの案内**

東京鰐陵会にホームページがあることをご存じですか。  
手持ちのパソコン、スマホから見てください。  
アドレスは、https://www.gakuryou.com/  
「東京鰐陵会」で検索することでも見つけれられます。  
クラシックなトップページです。中身も定期的には更新されていませんが、時々見てください。  
トップページにある「鰐陵メール」で情報もお寄せください。(HP担当：新田)



計報(2023年7月1日以降)

前回発行以降に連絡及び昨年の総会中止案内の返信等で、下記のご逝去の報をお受けしました。心からご冥福をお祈り申し上げます。鰐陵回生順、年月日は、お受けした返信等によるご逝去の年月日です。

記

22回生	吉田 正文	2020(令和2)年8月14日逝去
23回生	加藤 恵次郎	2022(令和4)年11月19日逝去
24回生	桑田 信治	2022(令和4)年逝去
26回生	金野 和夫	2023(令和5)年春逝去
26回生	千葉 滋	2023(令和5)年4月16日逝去
30回生	安部 平和	2022(令和4)年7月22日逝去
30回生	佐々木 忠夫	2023(令和5)年7月21日逝去
30回生	橋本 興二	2021(令和3)年3月30日逝去
32回生	後藤 嘉己	2021(令和3)年5月逝去
32回生	小林 喬郎	2023(令和5)年9月逝去
33回生	川野 敏郎	2023(令和5)年3月27日逝去
34回生	岡部 勇太	2024(令和6)年1月21日逝去
44回生	杉山 茂	2023(令和5)年4月逝去
45回生	亀山 忠義	2013(平成25)年1月逝去
45回生	高橋 潤一	2022(令和4)年4月逝去
46回生	伊勢秀一郎	2024(令和6)年7月1日
48回生	小林 清志	2021(令和3)年7月逝去

(2024(令和6)年6月30日現在)

発行●東京鰐陵会(石巻高等学校同窓会東京支部)  
会長 加藤友成  
発行所●東京鰐陵会事務所(新田輝夫 方)  
〒115-0043 東京都北区神谷1-3-5-304  
TEL & FAX：03-3927-8856  
編集●東京鰐陵編集委員会  
Mail：info@gakuryou.com  
【振込み口座】●郵便振替口座番号：00180-4-350194  
加入者名：東京鰐陵会

【編集後記】  
今回の東京鰐陵会会報誌「東京鰐陵」22号は「石巻高校創立百周年記念号」として制作に取り組みました。また東京鰐陵会は創立65周年の節目にあることも踏まえて内容の検討を進めました。  
百周年の記念すべき年として「高橋英吉」が相応しいと考え、大島幹雄氏にご寄稿をお願いしたところ快諾を頂きました。心より感謝申し上げます。  
特集については今回も3部構成として第一部は「東京鰐陵会総会」の報告としました。昨年の総会は久しぶりのリアル開催となり、大変な盛り上がりとなりました。多少なりとも会場の雰囲気を感じられたことと思います。第二部は「会員と共に」として奥山興悦氏(31回生)がわが師と仰いだ「三淵嘉子さん」の魅力と貢献について紹介を頂きました。また東京鰐陵会の六五周年を記念して50回生(六五歳)及び65回生の方に寄稿頂きました。また「会員からのお便り」コーナーではたくさんの方から近況をお知らせ頂きました。また挿絵として高橋英吉の作品を掲載させて頂きました。石巻市博物館様には感謝申し上げます。第三部では「母校は今」と題して「アフターコロナ」の学校生活について報告頂きました。少しずつコロナから脱して各種行事が再開してきました。  
六月九日に開催した「高橋英吉氏上映会」についての報告をさせて頂きました。四共催団体・十二後援団体による首都圏での初めてのイベントは未来への始まりを期待するものにもなりませんでした。  
本号の編集は従来メンバーと同様に加藤友成会長(40回生)・瀬川徹副会長(40回生)・平塚善伸副会長(40回生)・伊藤純一事務局長(43回生)・新田輝夫事務局長次長(42回生)・遠藤洋治事務局長次長(43回生)・小田島孝好事務局長次長(43回生)・尾口仁志事務局長次長(44回生)・そして佐藤悠監事(37回生)・丹野静也参事(37回生)・境田憲男参事(40回生)の11名で行いました。体調を崩された方もおられました。協力を頂いたことに感謝し、ありがとうございます。編集会議はZoomによるリモート会議形式が定着してきました。現在ではリアル会議の中でリモート形式を併用したハイブリッド型でも開催可能となっております。驚きの感があります。また今後は女性や若い世代からの編集委員への参加も引き続き呼び掛けていきたいと考えています。ご協力ご支援のほど宜しくお願い致します。  
(編集委員会)